

令和7(2025)年度

第3学年

# 年間学習指導計画書



滋賀県立大津商業高等学校

# 本書の使い方について

## 年間学習指導計画書とは

本計画書は、「授業で学習することがら」、「年間の授業の流れ」、「学習の観点」、「考査計画」や「評価方法」などを記載したものです。生徒の皆さんに、1年間の授業内容を見通して、各科目の学習計画を把握してもらうために作成しました。見慣れないもので理解しにくいかもしれませんが、しっかり読んで下さい。

「何を目的として授業をしているのか」、「何をもちて評価するのか」、「皆さんに何を期待しているのか」といった内容が書かれています。

本書によって皆さんが事前に学習計画を作り、学校での授業や家庭での学習が少しでも充実したものになってほしいと考えています。

## 本書の見方

学年						単位数		
科目名	※1		情報システム科 ※2		総合ビジネス科			
			開発	利用	I類	II類	III類	
学習の目標								
使用教材	教科書： 副教材：							
評価	評価法	※4						
	評価観点の趣旨	①	知識・技能					
		②	思考・判断・表現					
		③	主体的に学習に取り組む態度					
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。								

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
		※5				

※1 皆さんが受ける授業の科目名を明記しています。

※2 2年生・3年生では、総合ビジネス科、情報システム科の小学科の中でさらに類型やコースに分かれて授業が行われます。自分の類型やコースに注意して下さい。（詳しくは「教育課程表」や「目次」を見て下さい。）

※3 その科目の授業が週に何時間あるかを書いています。「2」とあれば週に2時間で、修得できる単位数が「2単位」ということです。

※4 授業での評価のしかたや観点が示されています。意欲的に学習する態度を養って下さい。

※5 一年間の授業の流れが示され、「何を身につけてほしいか」が示されています。計画的に学習し、必要な知識などを手に入れる力を養って下さい。また、評価についても書いてあります。考査の成績の他にも大切なことがあります。その科目を学習するにあたって、さまざまなアドバイスが書かれていることもありますので、しっかり読んで参考にして下さい。

大津商業高等学校

教育課程

令和5年度入学生用

教科	科目	標準 単位数	必修 科目	学校 設定 科目	学年・学科・類型等															合 計				
					情報システム科						総合ビジネス科									情報システム科		総合ビジネス科		
					システム開発			システム利用			Ⅰ類(マーケティング)			Ⅱ類(アカウンティング)			Ⅲ類(グローバル)			システム 開発	システム 利用	Ⅰ類(マーケ ティング)	Ⅱ類(アカウ ンティング)	Ⅲ類(グロー バル)
					1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年					
国語	現代の国語	2	●		2			2			2			2			2			2	2	2	2	2
	言語文化	2	●		2			2			2			2			2			2	2	2	2	2
	論理国語	4					2	2		2	2		2	2		2	2		2	2	4	4	4	4
	文学国語	4					2	2		2	2		2	2		2	2		2	2	4	4	4	4
地理	地理総合	2	●				2			2			2			2			2	2	2	2	2	
	歴史総合	2	●				2			2			2			2			2	2	2	2	2	
公民	公民	2	●		2			2			2			2			2			2	2	2	2	
数学	数学Ⅰ	3	●		3			3			3			3			3			3	3	3	3	
	数学A	2					2			2			2			2			2	2	2	2	2	
	数学Ⅱ	4					(3)			(3)			(3)			(3)			(3)	(3)				
理科	科学と人間生活	2	●		2			2			2			2			2			2	2	2	2	
	生物基礎	2	●				2			2			2			2			2	2	2	2	2	
	生物	4					(3)			(3)			(3)			(3)			(3)	(3)	(3)	(3)		
保健	体育7~8	7~8	●		2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	3	2	2	3	7	7	7	7	
	保健	2	●		1	1		1	1		1	1		1	1		1	1		2	2	2	2	
芸術	音楽Ⅰ	2	○				(3)			(3)			(3)			(3)			(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	
	美術Ⅰ	2	○				(3)			(3)			(3)			(3)			(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	
	書道Ⅰ	2	○				(3)			(3)			(3)			(3)			(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	●		3			3			3			3			3			3	3	3	3	
	英語コミュニケーションⅡ	4					3			3			3			5			3	3	3	3	5	
	英語コミュニケーションⅢ	4					3			3			3			3			3	3	3	3	3	
	論理・表現Ⅰ	2			2			2			2			2			2			2	2	2	2	
	英語演習α	3~6	●				(3)			(3)			(3)			(3)			(3)	(3)	(3)	(3)		
英語演習β	3~6	●													3							3		
家庭	家庭基礎	2	●				2			2			2			2			2	2	2	2	2	
	ビジネス基礎	2~4	●		3			3			3			3			3			3	3	3	3	
	課題研究	2~4	●				1	3		1	3		1	3		1	3		1	3	4	4	4	
	総合実践	2~4					4			4			4			4			4	4	4	4	4	
	マーケティング	2~4								4											4			
	商品開発と流通	2~4									4										4			
	観光ビジネス	2~4									(3)										(3)			
	グローバル経済	2~4														4							4	
	簿記	2~5			3			3			4			4			4			3	3	4	4	
	財務会計Ⅰ	2~4					3			3			4			4			3	3	4	4	4	
	財務会計Ⅱ	2~4												4			4					4		
	原価計算	2~4								(3)			(3)	4		4			(3)	(3)	(3)	4	4	
	管理会計	2~4													(3)							(3)		
	情報処理	2~5			4			4			3			3			3			4	4	3	3	
	ソフトウェア活用	2~4					4			4			2			2				4	4	2	2	
プログラミング	2~5					4			4										4	4				
ネットワーク活用	2~4						3													3				
ネットワーク管理	2~4					3														3				
各教科・科目計					29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	
ホームルーム活動(時間数/週)					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
合計(時間数/週)					30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
合計(単位数/週)					29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
卒業に必要な履修単位数					87																			
卒業に必要な修得単位数					80																			
備考					●は、必修科目 ○は、各教科の中から1科目必修。「総合的な探究の時間」は「課題研究」で代替。「情報Ⅰ」は「情報処理」で代替。 ※3年生芸術Ⅰは音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰの中から一つ選択。 ※3年生は芸術を除く、(3)から1科目を選択。																			

## もくじ

教科	科目	単位数	ページ	学科・類型				
				情報システム科		総合ビジネス科		
				開発	利用	I類	II類	III類
国語	論理国語	2	3~4	○	○	○	○	○
	文学国語	2	5~6	○	○	○	○	○
地歴	地理総合	2	7~8	○	○	○	○	○
数学	数学Ⅱ	(3)	9~10	○	○			
理科	生物	(3)	11	○	○	○	○	
保体	体育	3	12~14	○	○	○	○	○
芸術	音楽Ⅰ	3	15	○	○	○	○	○
	美術Ⅰ		16~17					
	書道Ⅰ		18~19					
外国語	英語コミュニケーションⅢ	3	20~21	○	○	○	○	○
	英語演習α	(3)	22~23	○	○	○	○	
	英語演習β	3	24					○
商業	課題研究 ITライセンス講座	3	25~26	○	○			
	課題研究 ITクリエイティブ講座		27	○	○			
	課題研究 観光ビジネスプロジェクト講座		28~29			○		
	課題研究 会計エキスパート講座		30				○	
	課題研究 グローバルビジネス講座		31~32					○
	課題研究 ソーシャルビジネス講座		33	○	○	○	○	
	課題研究 ファイナンシャル・プランナー講座		34~35	○	○	○	○	
	総合実践	4	36~37	○	○	○	○	○
	商品開発と流通	4	38~39			○		
	観光ビジネス	(3)	40~41			○		
	グローバル経済	4	42~43					○
	財務会計Ⅱ	4	44~45				○	
	原価計算	(3)	46~48		○	○		
	管理会計	(3)	49~50				○	
ソフトウェア活用	4	51~52	○					
プログラミング	4	53~55		○				

※芸術は音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰの中から一つ選択。

※選択科目は(3)から1科目を選択。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	論理国語	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	2年次の学習を基礎として、実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。また、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
使用教材	教科書：『新編論理国語』（東京書籍） 副教材：『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店）、『新版六訂 カラー版新国語便覧』（第一学習社）					
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノート、レポート・作文、グループ討議・発表、振り返りシート等により、総合的に評価				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。		
		②	思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広めたり深めたりしている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	「最初のペンギン」 【時代をひらく】 (読むこと)	タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりとして、自らの生き方について考える。 ・文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握する。【思考・判断・表現】 ・タイトルに象徴される筆者の考えを理解し、過去の経験を振り返るとともに、話し合いを通して、自身が今後どう生きるべきかについて考えを深める。【主体的に学習に取り組む態度】	定期考査、小テスト等	定期考査、ノート、レポート、グループ討議・発表等	定期考査、小テスト、ノート、レポート・作文、等
	5	「豊かさとは生物多様性」 【時代をひらく】 (読むこと)	論理の展開を適切に理解し、「生物多様性」の重要性と課題について理解を深める。 ・文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握する。【思考・判断・表現】 ・「生物多様性の保全」を困難にする「南北問題」、科学技術に関する「質」と「料」の問題について正確に読み取り、筆者の主張を理解する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・「生物多様性の保全」のために必要なことについて考え、意見をまとめる。【主体的に学習に取り組む態度】			
	6	「短い論文を書いて読み合う」 【新しい視点から】 (書くこと)	資料の内容に対する自分の考えを、短い論文にまとめる。 ・自ら定めた話題に関する資料(論説文や関連資料)を収集する。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 ・資料の内容から読み取ったことに対する自分の意見をまとめる。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・論文の構成・展開に注意しながら、800字程度の論文を作成する。【知識・技能】【主体的に学習に取り組む態度】			
	7	「カフェの開店準備」 【新しい視点から】 (読むこと)	日々の何気ない光景から広がる筆者の思考を記された本文を手がかりに、自身の日常を見つめ直す。 ・文章構成や論理展開に注意しながら、具体例を通じて述べられている筆者の思考を正確に読み取る。【思考・判断・表現】 ・「痕跡の残らない行為」に対する筆者の考えについて話し合うことで、日常を見つめると言う行為への意識を深める。【思考・判断・表現】 ・日常生活のあり方について考え、文章にまとめる。【主体的に学習に取り組む態度】			

2 学期	9	「鏡としてのアンドロイド」 【科学と人間】 (読むこと)	アンドロイド研究を通じて会得した人間観を述べた本文における筆者の主張を通じて、科学技術を求めてやまない人間の本质を理解する。 ・文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握する。【思考・判断・表現】 ・「人間についての根本的な疑問」と「創造的な活動」との関連を読み取り、人間が「何かを作ること」の意味について考える。 【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】	定期 考査、 小テ スト 等	定期 考査、 ノート、 レポー ト、 グルー プ討 議・ 発表 等	定期 考査、 小テ スト、 ノート、 レポー ト・ 作文、 等
	10	「資料を活用して論述しよう」 【豊かな認識】 (書くこと)	設定されたテーマに関連する資料を考察し、自らの意見を論述する。 ・テーマに沿って収集した様々な資料を考察し、観点を決めて整理する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・情報の妥当性、信頼性を吟味しながら、論点と主張を明確にし、自らの主張を論述する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・作成した論述について、グループ単位での批評を通じて推敲し、小論文を完成させる。 【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 ・グループ内で小論文を発表し合い、相互評価する。 【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】			
	11	「科学的『発見』とは」 【豊かな認識】 (読むこと)	本文中に示された二つの課題を追体験しながら本文を読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ・文章の種類を踏まえ、具体的事例としての課題内容の本文における位置づけを正確に把握し、筆者の主張を適切に理解する。 【思考・判断・表現】 ・日常生活における科学的視点を持つことの意義についてまとめ、自身の考えを論述する。 【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】			
	12	「もう一つの知性」 【知のゆくえ】 (読むこと)	科学的思考とは異なる思考のあり方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ・文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握する。【思考・判断・表現】 ・「情報化社会」についての筆者の見解を通して、現代人の「知っている」「知らない」ということの意味を理解する。 【思考・判断・表現】 ・本来の「知性」、「『プリコラーージュ』的な知の可能性」についての筆者の主張を正確に読み取るとともに、現代社会を生きるうえで必要な「知」についての自身の考えを論述する。 【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】			
3 学期	1	「ホンモノのおカネの作り方」 【明日をみつめて】 (読むこと)	貨幣に関する二つの具体例の対比に注意して筆者の主張を理解し、常識と思われることを掘り下げて考える姿勢の必要性を理解する。 ・文章の種類を踏まえ、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握する。【思考・判断・表現】 ・「『ホンモノの形而上学』」等の表現をてがかりに、貨幣についての筆者の見解を理解する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・「資本主義」、「貨幣経済」、現在普及している「電子マネー」について調査し、本文の内容との関連についてグループで話し合う。【主体的に学習に取り組む態度】	定期 考査、 小テ スト 等	定期 考査、 グルー プ討 議・ 発表 等	定期 考査、 ノ ート、 レポー ト、 レポー

#### 担当者からのメッセージ（学習方法など）

本科目では、2年次に「論理国語」で学習し身につけた力を基礎とし、論理的な文章および実用的な文章の読解を通して、実社会に必要な国語の知識を身につけ、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高めていきます。新しい教材を学ぶ際には事前に語句の意味を調べるなどし、文章理解に向けての準備をしましょう。日々の授業や家庭学習においては、見通しをもって積極的に学習活動に取り組み、自ら考えるとともに、考えたことを文章にまとめ、他者に伝えるよう努めましょう。教科書教材と並行して小テストを実施しますので、自分で計画を立てて学習を進めましょう。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	文学国語	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	二年次の学習を基盤とし、文学的文章の読解を行い、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を育む中で我が国の文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通じて社会に関わろうとする態度を養う。また生涯にわたる社会生活において必要な言語感覚を磨き、文学的文章の内容や表現を吟味することを通して、自らの言葉に対する感性を磨く。					
使用教材	教科書：『文学国語』（東京書籍） 副教材：『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店）、『カラー版新国語便覧』（第一学習社）					
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノート、レポート・作文、グループ討議・発表、振り返りシート等により、総合的に評価				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	生涯にわたる社会生活において必要な国語の知識や技能を適切に使っている。また日本の言語文化に対する理解を深めている。		
		②	思考・判断・表現	文学的な文章や作品を読む・書く中でその内容や表現等の吟味・評価を行い、自身の新しい考えや発想を生み出す力を育成できている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて他者や社会とのかかわりについて理解を深め、言葉が持つ価値への認識を深めている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	『国語から旅立って』 【随筆1】 (読むこと)	筆者の多言語理解に基づく随筆を読み、言語と自分との関係について理解を深める。 ・本文の構成や展開を的確しながら、筆者の幼い頃から現在までの日本語との関わりについて理解する。【思考・判断・表現】 ・筆者が主張する「世界の見え方が変わる」経験とは、どのようなことかを読み取るとともに、言葉と自分との関係について、自分の考えをまとめる。【主体的に学習に取り組む態度】	定期考査・小テスト・提出物等	定期考査・小テスト・提出物等	定期考査・小テスト・提出物等
	5	『檸檬』 【小説1】(読むこと)	登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味を考える。 ・「私」の行動内容の叙述を中心に、文章構成や展開を的確に捉える。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・「私」の言動や心理についての描写を表現に即して読み取り、「檸檬」を買ってからの「私」の心情を理解する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・自身の経験を踏まえながら、「檸檬」が象徴するものについて考え、グループ内で話し合う。【主体的に学習に取り組む態度】			
	6	『小説の人称を書き換える』 【小説1-言語活動】 (書くこと)	人称による表現効果を理解する。 ・教科書掲載作品のうち一人称を用いている作品を選び、三人称に書き換える。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・人称を書き換えた作品をグループで読み比べ、人称による印象の違いや、表現効果について話し合い、まとめる。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】			
	7	『小諸なる古城のほとり』<詩> 『金剛の露-俳句抄』<俳句> 【詩歌】(読むこと)	<詩> 文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・文語表現、五七調に注意しながら音読をすることを通じて、表現の特徴を理解する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・作品の時代背景や、作者の経歴を踏まえ、各連に描かれた情景と、そこに込められた心情について考える。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 <俳句> 俳句の特徴と表現効果を理解し、各句の主題について考える。 ・句切れや季語を意識しながら、俳句特有のリズムを読み味わう。【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品の時代背景や、作者の経歴を踏まえ、句に詠まれた情景と、そこに込められた心情について考える。【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】			

2 学 期	9	『平気—正岡子規』【詩歌】 (読むこと)	韻文とその解釈によって描き出される人物像を的確に捉え、人間と文学の関係について考える。 ・文章構成や展開を的確に捉え、本文中で描かれる正岡子規の人物像を読み取る。【思考・判断・表現】 ・「平気」とはどのような心のあり方であるのかを考える。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・正岡子規を「滑稽家」として述べる筆者の主張について、自分の考えをまとめる。【主体的に学習に取り組む態度】	定期 考 査 ・ 小 テ ス ト ・ 提 出 物 等	定期 考 査 ・ 小 テ ス ト ・ 提 出 物 等	定期 考 査 ・ 小 テ ス ト ・ 提 出 物 等
	10	『クレールという女』 【随筆2】(読むこと)	人生の長い時間の中で深まっていった筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。 ・本文の展開に即して、『人間のしるし』のあらすじと、登場人物各々の生き方や考え方の変化を理解する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・『人間のしるし』に対する解釈についての叙述を通して、筆者の生き方についての考え方が、過去と今とでそれぞれどのように変わったのかを読み取り、整理する。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 ・筆者の『人間のしるし』についての考えを受け、人間の生き方について自分の考えをまとめ、論述する。【主体的に学習に取り組む態度】			
	11	『舞姫』【小説2】(読むこと)	文章構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を正確に読み取り、人生の選択について考える。 ・近代文学の代表作『舞姫』の読解を通じて、懐古文体の特徴や魅力を理解する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・登場人物相互の関係性や、各々の境遇や性格・心情を正確に読み取る。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・「豊太郎」の考え方や行動に対する受け止め方について、歴史的背景なども踏まえながらグループで話し合い、自分の考えをまとめる。【主体的に学習に取り組む態度】			
	12	『葉桜と魔笛』【小説3】 (読むこと)	物語の展開を把握しつつ、その中に表現される人間の心の奥深さを味わう。 ・作品の文体の特徴とその効果について理解する。【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・「魔笛」に対してそれぞれの登場人物が抱く思いについて正確に読み取る。【思考・判断・表現】 ・「老夫人」の語る出来事を年代順に整理し、本作品において時間の流れがどのような役割を果たしているかについてグループで話し合い、自分の考えを論述する。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】			
3 学 期	1	『さまざまな資料を調べて発表する』 【小説3-言語活動】 (書くこと)	作品成立の背景や、他の作品との関連性を調べることを通して、作品の解釈を深める。 ・教科書に掲載されている作品から文学作品の一つを選び、その作品や作者についての関連情報を調査し、まとめる。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 ・調査内容を踏まえながら、作品を再読し、解釈を深める。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 ・再読による新たな気づきについてまとめ、グループ内で発表する。【主体的に学習に取り組む態度】	定期 考 査 ・ 小 テ ス ト ・ 提 出 物 等	定期 考 査 ・ 小 テ ス ト ・ 提 出 物 等	定期 考 査 ・ 小 テ ス ト ・ 提 出 物 等

### 担当者からのメッセージ（学習方法など）

本科目では、2年生で学習した「文学国語」の学習を基本として、日本の文学的文章を通して、言語能力の向上と豊かな感性の育成を目指します。たとえ現代に書かれた文章であっても、語句や漢字を正しく理解しなければ内容を正しく読み取ることはできません。事前に語句を調べ、内容理解に向けた準備を行いましょう。日々の授業においては、予習と復習への積極的な取り組みに努めてください。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	地理総合	開発	利用	I類	II類	III類
		2	2	2	2	2
学習の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。					
使用教材	教科書：わたしたちの地理総合（二宮書店）・標準高等地図（帝国書院） 副教材：わたしたちの地理総合ワークブック（二宮書店）・図説地理資料世界の諸地域NOW2025（帝国書院）					
評価	評価法	定期考査・小テスト・レポート課題・振り返りシート等により評価する。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。		
		②	思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについて自覚などを深めることができる。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	球面上の世界 国家の領域と領土問題	*地球儀やさまざまな図法の地図から地球上における位置のとり方について理解する。 *時差が生じる理由や時差の求め方を理解し、時差が私たちの生活にどのような影響を与えているか追究する。 *さまざまな国境によって国家の領域が定められていることを理解し、世界や日本がどのように国家の領域を定めているのかについて追究する。 *排他的経済水域や領土をめぐる問題に着目し、世界や日本が抱えている問題について課題を見出す。	定期考査・小テスト等	定期考査・レポート課題等	振り返りシート・レポート課題等
	5	国内や国家間の結びつき 日常生活のさまざまな地図	*国家間の結びつきの変化について地図を用いて理解する。 *観光と人々の移動について地図を用いて理解する。 *交通と通信の発達によって世界の結びつきがどのように変化してきたかについて地図を用いて追究する。 *世界の貿易の特徴について先進国と発展途上国の関係や各国間の協定から理解する。 *身の回りにあるさまざまな地図から目的に応じた地図の活用方法について理解する。 *地理情報システム（GIS）の特徴や活用方法について理解し、私たちの生活のなかでどのように役立てられているか追究する。			
	6	自然環境と生活文化	*世界各地にみられる地形がどのように人々の生活に関わっているかについて理解する。 *気候の違いによって、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解し、さまざまな気候に対して、人々が築いてきた生活の工夫や課題を追究する。			
	7	産業の発展と生活文化	*農業や工業の発展が世界の人々の生活や経済にどのような影響を与え変化させてきたかについてアジアの国々に着目し、各国の取り組みについて理解する。			

2 学 期	9	言語・宗教と生活文化 グローバル化の進展と生活文化	<p>*世界には多くの言語や宗教、文化があり、人々の価値観や行動に影響し、日々の生活習慣となっていることを理解し、世界と日本各地の生活文化にどのような共通点・相違点があるのかについて追究する。</p> <p>*伝統や価値観を共有する国々が一つにまとまることで、人々の生活がどのように変化したかをヨーロッパの統合を通して理解する。また、統合によってどのような課題が生じたかについて追究する。</p>	定期 考 査 ・ 小 テ ス ト 等	定期 考 査 ・ レ ポ ー ト 課 題 等	振 り 返 り シ ー ト ・ レ ポ ー ト 課 題 等
	10	人口・食料問題 居住・都市問題	<p>*人口問題が生じている場所や要因を理解し、国際機関や政府の動きに着目しながら、人口問題に対する取り組みについて追究する。</p> <p>*世界や日本でどのような食料問題があるか理解し、解決のために必要な取り組みについて追究する。</p> <p>*農村と都市の生活を比較し、都市に人口が集まる要因を理解する。また、ロンドンやニューヨークを事例にあげ、より暮らしやすい街にするためにどのような取り組みがされているか追究する。</p>			
	11	資源・エネルギー問題 地球環境問題	<p>*エネルギー資源の生産地と消費地は、地域的に偏在していることを理解する。また、資源の有限性についてどのように対応していけばよいか追究する。</p> <p>*資源の少ない国は資源確保のためにどのような取り組みをしているか日本の具体的な事例を取り上げて追究する。</p> <p>*地球環境問題は世界各地でどのような影響を及ぼしているか理解する。</p> <p>*地球温暖化に着目し、温暖化への対策について私たちができる取り組みについて追究する。</p>			
	12	自然環境と防災	<p>*自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴について理解し、生活のなかにみられる防災・減災に向けた取り組みを見出すための地理的見方・考え方を身に付ける。</p>			
3 学 期	1	持続可能な地域づくり	<p>*私たちの生活圏にはどのような地域的課題があるか事前調査を行うことで調査テーマを設定する。</p> <p>*地域調査の手順や注意すべきことについて理解する。</p> <p>*地域調査を実施し、調査結果を分析・整理し、地域に還元するにはどのような取り組みが必要か追究する。</p>	定期 考 査 ・ 小 テ ス ト 等	レ ポ ー ト 定期 考 査 ・ 課 題 等	振 り 返 り シ ー ト ・ レ ポ ー ト 課 題 等

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「地理総合」は何かができるようになるかが問われる科目です。現代世界や日本が抱えている深刻な課題解決に向けて、自分なら社会や地域にどのように貢献できるのかを「地理総合」という科目を通して考える力を身に付けてほしいと思います。

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	選択 数学Ⅱ	開発	利用	I類	II類	III類
		3	3	-	-	-
学習の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。					
使用教材	教科書：新編数学Ⅱ（第一学習社） 副教材：新課程版 スタディ数学Ⅱ（第一学習社）					
評価	評価法	①定期考査 ②小テスト ③単元中テスト(2学期実施) ④課題プリント(レポート含む) ⑤問題集 ⑥授業時の取り組み・振り返りシート により評価する。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりしている。		
		②	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察したり、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	整式の乗法・除法・因数分解	・3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解する。 ・二項定理やその利用法を理解する。 ・整式の割り算の方法を理解する。	① ②	① ④	② ④ ⑤ ⑥
	5	複素数と方程式	・複素数の四則計算の方法を理解する。 ・2次方程式の解の公式、解の判別の仕方を理解する。 ・2次方程式の解と係数の関係や利用法を理解する。			
		高次方程式	・剰余の定理やその利用法を理解する。 ・因数定理やその利用法を理解する。 ・高次方程式の解法を理解する。			
		中間考査				
	6	直線の方程式	・与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができるようにする。 ・2直線の平行条件・垂直条件やその適用の仕方を理解する。			
		微分係数と導関数	・微分係数の定義やその図形的意味を理解する。 ・導関数を利用して、微分係数を求めることができるようにする。 ・与えられた条件を満たす接線の方程式を求めることができるようにする。			
		3次関数のグラフ	・導関数を用いて関数の増加・減少を調べて関数の極値を求め、3次関数のグラフをかくことができるようにする。 ・グラフを利用して方程式の実数解の個数を調べることができるようにする。			
		積分	・不定積分・定積分を求めることができるようにする。 ・定積分を利用していろいろな図形の面積を求めることができるようにする。			
	期末考査					

1 学期	7	等式・不等式の証明	<ul style="list-style-type: none"> <li>等式・不等式を証明する方法を理解する。</li> <li>相加平均と相乗平均の大小関係について理解する。</li> </ul>			
2 学期	9	指数関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>0や負の整数の指数について理解する。</li> <li>累乗根の定義や性質及び累乗根を含む式の計算方法を理解する。</li> <li>有理数の指数について理解する。</li> <li>指数関数のグラフや性質を理解する。</li> <li>指数関数の性質を数の大小比較や方程式・不等式の解法に活用できるようにする。</li> </ul>	① ② ③	① ③ ④	② ④ ⑤ ⑥
		対数関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>対数の定義について理解する。</li> <li>対数の性質や底の変換公式の利用法を理解する。</li> <li>対数関数のグラフや性質を理解する。</li> <li>対数関数の性質を数の大小比較や方程式・不等式の解法に活用できるようにする。</li> <li>常用対数及びその利用法を理解する。</li> </ul>			
	10	三角関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般角、弧度法による角の表し方を理解する。</li> <li>三角関数の相互関係や性質について理解する。</li> <li>三角関数を含む方程式や不等式の解法を理解する。</li> <li>三角関数のグラフの特徴を理解して、そのグラフをかけるようにする。</li> </ul>			
		三角関数の加法定理	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角関数の加法定理やその利用法を理解する。</li> <li>2倍角の公式、半角の公式及びその利用法を理解する。</li> <li>三角関数の合成やその利用法を理解する。</li> </ul>			
	11	点と直線	<ul style="list-style-type: none"> <li>平面上の2点間の距離を求めることができるようにする。</li> <li>点と直線の距離を求めることができるようにする。</li> </ul>			
		円の方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた条件を満たす円の方程式を求めることができるようにする。</li> <li>円と直線の共有点の座標を求めることができるようにする。</li> <li>円と直線の位置関係を調べる方法を理解する。</li> <li>条件を満たす円の接線の方程式を求めることができるようにする。</li> </ul>			
		期末考査				
3 学期	12	平面上の点の座標	<ul style="list-style-type: none"> <li>内分点・外分点の座標を求めることができるようにする。</li> <li>三角形の重心の座標を求めることができるようにする。</li> </ul>	①	① ④	④ ⑤ ⑥
		軌跡と領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができるようにする。</li> <li>不等式の表す領域を図示することができるようにする。</li> <li>連立不等式の表す領域を図示することができるようにする。</li> <li>領域を利用して1次式の最大値や最小値を求める方法を理解する。</li> </ul>			
	課題学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>数学Ⅱで学習する内容と関連する身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを知る。</li> </ul>				
		学年末考査				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

標準4単位の科目を1単位減の3単位で行っているため、毎時間多くの内容を学習します。授業の進むスピードも、1,2年生の時とは大きく異なります。まずは毎回の授業を大切に組みむと同時に、問題集を活用して早めに復習に取り組み、分からない所があれば早めに質問する姿勢を持ってもらいたいと思います。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	選択 生物	開発	利用	I類	II類	III類
		3	3	3	3	-
学習の目標	日常生活との関連を図りながら生物に関する概念や原理・法則を理解し、生物学への関心を高める。また、身近な生物を用いた実験や観察を通して探求する能力と態度を養うとともに、環境保全や持続可能な社会を目指す意識を身につける。					
使用教材	教科書：高等学校生物（第一学習社）					
評価	評価法	定期考査・学習プリントおよび実験実習レポートと課題レポートの提出・グループワークの成果などにより評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	生物に関する概念や原理・法則等を理解しているとともに、実験・観察に必要な操作や記録方法などの技能が身につけている。		
		②	思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見出し、見通しをもって観察や実験を行い、得られた結果を分析して表現することができる。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象の理解に主体的に取り組み、見通しをもって学習や振り返りを行う態度を持っている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	第1編 生物の系統と進化 第1章 生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物はどのように誕生し、どのようなしくみで進化し多様化してきたかを理解する。</li> <li>・現生の生物が進化してきた道筋を推定する方法とヒトの進化について学ぶ。</li> <li>・細胞膜の性質と細胞に存在するタンパク質の働きについて理解する。</li> <li>・光合成や呼吸ではどのような過程で有機物の合成やエネルギーの産生を行っているかを学ぶ。</li> </ul>	定期考査	定期考査 ・ 学習プリント ・ グループワーク	実験・実習レポート ・ 学習プリント
	5	第2章 生物の系統と進化				
	6	第2編 生命現象と物質 第3章 細胞と分子				
	7	第4章 代謝				
2 学期	9	第3編 遺伝情報の発現と発生 第5章 遺伝情報とその発現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DNAの複製・転写・翻訳はどのような仕組みで行われているかを理解する。</li> <li>・特定の遺伝子のみが発現するしくみや遺伝子の発現と発生との関わりについて学ぶ。</li> <li>・遺伝子を取り扱う技術にはどのようなものがあり、どのように利用されているかを知る。</li> <li>・動物の反応や行動が起こるしくみや、経験にもとづいた行動はどのようなしくみで生じるか学ぶ。</li> </ul>	定期考査	定期考査 ・ 学習プリント ・ グループワーク	実験・実習レポート ・ 学習プリント
	10	第6章 遺伝子の発現調節と発生				
	11	第7章 遺伝子を扱う技術とその応用				
	12	第4編 生物の環境応答 第8章 動物の反応と行動				
3 学期	1	第9章 植物の成長と環境応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の環境からの刺激に対する反応と成長のしくみについて理解する。</li> <li>・生態系の中での生物間の関係性や物質の移動について学び、人間の活動による影響について考える。</li> </ul>	定期考査	グループワーク	課題レポート
		第5編 生態と環境 第10章 生態系のしくみと人間の関わり				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

この科目では、2年生で学習した生物基礎の内容をより深めるとともに、生物の進化や動物の反応と行動、植物の環境応答など、生物基礎では触れなかった内容についても学習します。これまで学習した基礎的な事項を振り返り、十分に理解したうえで授業に臨んでください。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	体育	開発	利用	I類	II類	III類
		3	3	3	3	3
学習の目標	<p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>					
使用教材	教科書：体育理論…現代高等保健体育（大修館書店）体育編					
評価	評価法	① 観察                      ② スキルテスト ③ 学習カード              ④ パフォーマンス課題      から評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	オリエンテーション	<オリエンテーション> ・体育授業を受けるうえでの決まりを確認し、体育授業をスムーズに受けるための約束事を確認する。			
		体づくり運動	<体づくり運動> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康の保持増進や仲間とともに体力の向上を図る。 ・新体力テストを通し、自分の体力を理解する。	① ③	③	①

1 学 期	5 6	<p>体育理論①</p> <p>種目選択オリエンテーション</p> <p>選択 I</p>	<p>&lt;01 生涯スポーツの見方・考え方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。</li> <li>・ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。</li> </ul> <p>自己の能力、適性、興味・関心に応じて運動種目の選択をおこなう。</p> <p>【選択 I】 バドミントン、卓球、アルティメットから 1 選択</p> <p>&lt;選択 I &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝敗を競ったり、自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。</li> <li>・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える。</li> <li>・球技に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じた課題やプレイを大切にしようとする、健康・安全を確保する。</li> </ul>	<p>3</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>1</p> <p>1</p> <p>4</p>
	7	<p>体育理論②</p>	<p>&lt;02 ライフスタイルに応じたスポーツ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。</li> <li>・現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。</li> </ul>	<p>3</p>	<p>3</p> <p>4</p>	<p>1</p> <p>3</p>
2 学 期	9 10 11	<p>体育理論③</p> <p>体づくり運動</p> <p>選択 II</p>	<p>&lt;03 スポーツを推進する取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。</li> <li>・自分が住んでいる身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげられる。</li> </ul> <p>&lt;体づくり運動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康の保持増進や仲間とともに体力の向上を図る。</li> </ul> <p>【選択 II】 ソフトボール、バスケットボール、卓球から 1 選択</p> <p>※同種目は選択不可</p> <p>&lt;選択 II &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。</li> <li>・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える。</li> <li>・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとする。</li> </ul>	<p>3</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>1</p> <p>2</p> <p>3</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>1</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>1</p> <p>3</p> <p>1</p> <p>4</p>
	12	<p>体育理論④</p>	<p>&lt;04 豊かなスポーツライフの創造&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでとこれからのスポーツライフの違いを説明できる。</li> <li>・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について例をあげて説明できる。</li> </ul>	<p>3</p>	<p>3</p> <p>4</p>	<p>1</p> <p>3</p>

3 学 期	1	体づくり運動	<体づくり運動> ・体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康の保持増進や仲間とともに体力の向上を図る。	3	3	1
		選択Ⅲ	【選択Ⅱ】ソフトボール、バスケットボール、卓球から1選択 ※同種目は選択不可 <選択Ⅱ> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保しようとする。	2 3	3 4	1 3

担当者からのメッセージ（学習方法など）

体育は、実技がうまくできるかということに焦点をあてられがちですが、その点（技能）のみで評価をするわけではありません。知識や考える力、それを表現する力、主体的に学習に取り組む力なども評価の観点として総合的に評価をします。  
生涯にわたってスポーツを実践する礎となるように、前向きに、積極的な態度で授業を楽しんでください。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	音楽 I	開発	利用	I 類	II 類	III 類
		3	3	3	3	3
学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を養う。					
使用教材	教科書：MOUSA 1（教育芸術社）					
評価	評価法	実技テストや確認テスト、グループ発表やレポート課題などパフォーマンス課題、学習プリントや振り返りシート等をもとに総合的に評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりおよび音楽の多様性などについて理解を深めるとともに、創意工夫などして生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。		
		②	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	オーケストラを鑑賞しよう	曲の構成を理解し、音楽にこめられた作曲者の思いについて話し合い考えを深める。	実技テストや確認テスト・パフォーマンス課題等	パフォーマンス課題・学習プリント等	学習プリントや振り返りシート・パフォーマンス課題等
		いろいろな歌に親しもう	自己のイメージをもって歌詞の内容を理解し、曲にふさわしい発声で表現を工夫して歌う。音楽のしくみを理解し、音楽表現に必要な知識や技術を身につける。			
	5	ウクレレに親しもう	ウクレレの基本的な奏法を身につけ、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、イメージをもって表現を工夫して演奏する。			
	6 7	沖縄のころを感じよう	沖縄の生活と音楽の関わりをについて理解を深め、沖縄の音楽の特徴を生かした音楽をグループで創作し発表する。			
2学期	9	三線に親しもう	三線の基本的な奏法を身につけ、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、イメージをもって表現を工夫して演奏する。	実技テストや確認テスト・パフォーマンス課題等	パフォーマンス課題等	学習プリントや振り返りシート・パフォーマンス課題等
		10	箏に親しもう			
	11	滋賀の魅力を紹介しよう	人々の暮らしとともに音楽文化があることを理解し、滋賀の魅力を伝える音楽をグループで創作し発表する。			
	12	ハンドベルに親しもう	ハンドベルの基本的な奏法を身につけ、楽器の音色や奏法との関わりを理解し、イメージをもって表現を工夫して演奏する。			
3学期	1	ギターやキーボードに親しもう	ギターやキーボードの基本的な奏法を身につけ、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、イメージをもって表現を工夫して演奏する。	実技テストや確認テスト・パフォーマンス課題等	パフォーマンス課題等	学習プリントや振り返りシート・パフォーマンス課題等
		合唱の響きを味わおう	曲想や歌詞の内容を感じ取り、イメージをもって創意工夫して表現する。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

音楽の幅広い活動を通して、自分の思いや自分自身を表現することを目標とします。さまざまな音楽に触れ、仲間とともにたくさんの“感動”を味わってください。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	美術 I	開発	利用	I 類	II 類	III 類
		3	3	3	3	3
学習の目標	身近なものの観察とともに、自己を掘り下げ、多様な表現、鑑賞を通して、美術の学習に親しみ表現の能力を養うとともに表現のプロセスを大切に物作りの楽しみを育てる。					
使用教材	教科書：高校生の美術1（日本文教出版）					
評価	評価法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して積極的に取り組み、創造することに対して貪欲であったか。</li> <li>・作品に対して自分のペースで取り組み続けることができたか。</li> <li>・表現技法の可能性を受け止め、工夫して自らが表現したいものを狙い通り作品に落とし込むことができたか。</li> </ul>				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	示された表現技法を自らの表現したいものに対して、適切にまた工夫して進め、作品を充実したものとしているか。		
		②	思考・判断・表現	示された課題に対して、自らのアイデアや、考え方を積み上げ、その可能性を示し多様な表現方法を生かしているか。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	課題に対して興味を持ち、自らテーマ設定や技法を工夫することにより、自ら新しい表現を築く努力ができていないか。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・題材	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	オリエンテーション	授業の展開について 3単位の授業展開について 高校美術で身に着けるべきこと			○
	5	1, 平面表現の技法を学ぶ	平面製作に向けての表現技法を学ぶ（デッサン、ペン画、切り絵、 アクリルガッシュ、透明水彩、ポップアップ、色鉛筆等）	○	○	○
	6					
	7	2, 生活を彩る	2, 生活を彩る器や盛り付けについて学ぶ	○	○	○
2 学期	9	1, ポスター製作 2, 「生活を彩る」のための器づくり 3, 金属鑄造によるオブジェ	1, プランニングしたスケッチを選択した表現技法を用いて展開する。 2, 指示された道具を適切に器型の陶器を制作する 3, 自然の中から自らの形を掘り起こし、かたちにする ワックスにより原型、石膏型を作り金属鑄造する	○	○	○
	10			○	○	○
	11					
	12	4, 鑑賞			○	○
3 学期	1	1, 金属鑄造によるオブジェ 2, 生活を彩る	1. 鑄造したオブジェを鏡面加工する 2. 2学期に制作した器に、「主菜、副菜」「デザート」「生花」を盛りつけ、生活での彩りについて考察、発表。	○	○	○

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・1, 2学期の内容において、二つの課題を同時並行で進める。そのため、1学期は「技法練習」に2単位、「生活を彩る」に1単位を充てます。2学期に関しては「ポスター制作」に2単位、「生活を彩る」に1単位を割り振る。ただし進度によって、入れ替わることがあります。
- ・2学期の「金属鋳造によるオブジェ」は他の2作品の進度により、開講するか決定します。
- ・1学期の「技法練習」は平面技法の基本を多く盛り込むため、一つの技法への時間は多く持てないので、時間が抜けると後半に作業量が増えますので、注意してください。
- ・すべての学期で中間進度チェック、作品提出、レポート（teamsで提出）が課されます。未提出にならないように注意してください。
- ・教材費として年間3,000円徴収します。
- ・3学期の内容については、進度、準備等の都合で内容が一部変更、取りやめになることがあります。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	書道 I	開発	利用	I 類	II 類	III 類
		3	3	3	3	3
学習の目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を養う。					
使用教材	教科書：書1(光村図書)					
評価	評価法	作品(毎時)、授業プリント、振り返りシート、授業内発表、学習活動への参加状況などを総合的に評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができる。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造できる。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1～5の5段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	「漢字の書」の学習 臨書学習 ①楷書体 ②行書体 創作 校訓を書く 硬筆 鑑賞1…漢字の書軸3本 墨すり ③草書体	初エネーション 書写から書道へ 目標の確認 漢字の変遷と書体の歴史 中学までの復習から、高校での古典臨書への発展 〈臨書〉 ①『九成宮醜泉銘』『顔氏家廟碑』『孔子廟堂費』半紙2字 『牛橛造像記』半切1/3サイズ2字臨書(妙楽) ・楷書の古典4種を取り上げ、それぞれの古典の特徴、用筆、書風の違い、印象の差異を理解できたか ②『蘭亭序(神龍半印本)』半紙4字臨書 三種 冒頭12字を書く、半切1/2サイズ縦 臨書作品制作 ・行書の特徴、楷書との違いを理解できたか 筆脈を理解し、作品に表現できたか 〈創作〉校訓を書く「誠実・敬愛・自立」半切1/2サイズ横作品 ・学んだ古典の中から好きな書風を選び、古典を生かした創作作品の完成を目指す 硬筆 楷書と行書を実用書に応用する 鑑賞 グループワーク 墨すり 墨色の変化、墨色による印象の違い、表現の広がり学ぶ 草書体 自分の名前から1字を選び草書体を字調べし、墨色を調整して、半紙の創作作品を完成させる	作品(半紙2点) 縦作品(35x68cm) 横作品(68x35cm) 作品(半紙)作品(正方形35x34cm)	課題毎に授業プリント 硬筆プリント 授業プリント	初期アンケート 課題毎に振り返りシート 鑑賞ワーク発表 振り返りシート
	5		5	5	5	
	6		6	6	6	
	7		7	7	7	
2 学期	9	④隷書体 ⑤篆書体 及び 篆刻 「仮名の書」の学習 鑑賞2…仮名の書軸3本 硬筆	④『曹全碑』半紙2字臨書 ・隷書体の成立、特徴を学ぶ。 ・用筆(藏鋒)を理解し、練習し、再現できたか。 ⑤篆刻作品制作 卒業制作に押印する一字印の制作 仮名の成立と種類 変体仮名とは 小筆の用筆について「いろはうた」 『高野切第三種』しらゆきの…の歌を臨書 半紙縦1/2サイズ 散らし書きに挑戦 色紙サイズの散らし書きの創作作品制作 硬筆 年賀状を書く	作品(半紙) 作品(印、印影) 作品(半紙)(半紙1/2)色紙作品	授業プリント 授業プリント 授業プリント 鑑賞プリント 硬筆プリント	振り返りシート 振り返りシート
	10		10	10	10	
	11		11	11	11	
	12		12	12	12	

3 学 期	1	<p>卒業制作 好きな言葉を書こう！ 「漢字仮名交じりの書」</p>	<p>クラス毎に卒業制作のテーマ(漢字1字)を決定 夢、愛など テーマに従って言葉を探す、又は自分の思いを言葉にする 押印して完成 相互鑑賞会 ・卒業に際し自分の思いを筆に託して表現できたか 友人の作品を見てどのように感じたか</p>	<p>作品 縦横自由 (35x72cm)</p>	<p>創作作品 制作用 授業プリ ント</p>	<p>振り返り シート</p>
-------------	---	--	---	----------------------------------	-------------------------------------	---------------------

<p>担当者からのメッセージ (学習方法など)</p>	
<p>書の技術を高めることは勿論、書の歴史や文化を学び、現代社会を豊かに生きるための技術や感性を磨く活動を行います。</p>	

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	英語コミュニケーションⅢ	開発	利用	I類	II類	III類
		3	3	3	3	3
学習の目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させたり、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>エ 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができる。</p> <p>オ 日常的・社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができる。</p>					
使用教材	教科書：Grove English Communication Ⅲ(文英堂) 副教材：Grove Fill-In Notebook(文英堂)、Value1400(数研出版)、ジーニアス総合英語(大修館)					
評価	評価法	定期考査、小テスト、パフォーマンステスト、				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解し、これらの知識を、特に話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて運用することができる。		
		②	思考・判断・表現	外国語で読んだり聞いたりしたことについて、概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどを、論理性に注意して表現したり、伝え合ったりすることができる。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	外国語でのコミュニケーションに関心を持ち、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、情報や自分の考え・気持ちなどを、間違いを恐れず、積極的に積極的にコミュニケーションを図ることができる。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	LESSON 1 Fashion Revolution: Who Made Your Clothes?	Fashion Revolutionの活動について、パラグラフどうしのつながりを意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。	定期考査 小テスト	定期考査 パフォーマンステスト	パフォーマンステスト
		LESSON 2 The Custom of Food Samples	プラスチック製の食品サンプルについて、5W1Hの情報を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。			
	5	LESSON 3 A Boy Who Inspired the World	大学生がファストフード店の窓から見た光景について、時間的順序を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。			
		LESSON 4 Socotra: A Unique Island	世界遺産のソコトラ島について、言いかえ表現や代名詞の内容を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。			

1 学期	6	LESSON 5 No Meat on Monday  LESSON 6 Bamboo Trains	ミートフリーマンデーの活動内容と背景について、各パラグラフの役割を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。  カンボジアの竹の列車について、因果関係を意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。	定期考 査  小テス ト	定期考 査  パ フォー マン ス テ ス ト	パ フォー マン ス テ ス ト
	7	LESSON 7 Holiday Weight Gain  LESSON 8 A Feathery Find in Amber	祝祭休日期間の体重増加について、比較されている事柄の内容を整理しながら、話題の概要や要点をとらえる。  琥珀の中の恐竜の羽毛について、事実と意見の違いを意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。			
2 学期	9	LESSON 9 Bed Nets for African Children  LESSON 10 The Way You Look at a Problem	アフリカの蚊帳によるマラリア対策について、数値に関する情報に注意しパラグラフどうしのつながりを意識しながら、話題の概要や要点をとらえる。  4枚カード問題と確認バイアスについて、具体例の表現に注意して、論点を整理しながら、話題の概要や要点をとらえる。	定期考 査  小テス ト	定期考 査  パ フォー マン ス テ ス ト	パ フォー マン ス テ ス ト
	10	LESSON 11 A Song for the Queen  LESSON 12 Olympic Sports Come and Go	スウェーデンのシルビア王妃とABBAの歌との関わりについて、文章の展開に注意しながら話の展開や主旨をとらえる。  過去にオリンピックから除外された競技種目について、文章の展開に注意しながら話の展開や主旨をとらえる。			
	11	LESSON 13 Audrey Tang: Not Just an IT Expert  LESSON 14 Earth Hour	オードリー・タン氏の考えや行動について、文章の展開に注意しながら概要や要点、詳細を目的に応じてとらえる。  Earth Hourの活動とその広がりや、地球温暖化に対応するEVの推進について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。			
	12	LESSON 15 Making a Bright Future Through Chocolate	チョコレートの原料産地と児童労働について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。			
3 学期	1	LESSON 16 Spot Fake News  LESSON 17 The Sagrada Familia: A Spiritual Wonder	ネットのフェイクニュースとメディアリテラシーの重要性について、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。  サグラダ・ファミリアとアントニ・ガウディについて、文章の展開に注意しながら話題の概要や要点をとらえる。	定期考 査  小テス ト	定期考 査  パ フォー マン ス テ ス ト	パ フォー マン ス テ ス ト

### 担当者からのメッセージ（学習方法など）

日常のおよび社会的な話題について、英語で読み聞きした内容の要点をつかむために、多様な確認問題に取り組みます。また話し手や書き手の意図を把握するために情報整理を行ったり、自分の意見や気持ちを論理的に書いたり、生徒同士で話し合ったり、発表をすることがあります。授業では質問に答えたり、ペアワークをします。積極的に英語を使うようにして、コミュニケーション能力を一緒に高めていきましょう。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	選択 英語演習α	開発	利用	I類	II類	III類
		3	3	3	3	-
学習の目標	〔聞くこと・読むこと・話すこと（会話）・話すこと（発表）・書くこと〕の演習を通して、コミュニケーション能力を向上させ、英語を通じて積極的な対話を育む姿勢を養う。情報や考えを正確かつ適切に理解し、効果的に伝達するスキルを身につけ、自己表現の幅を広げることを目指す。					
使用教材	教科書：「GROVE ENGLISH COMMUNICATION III」（文英堂） 副教材：「Wonderland New Edition 3」（いいずな書店）					
評価	評価法	定期考査、課題考査 単語テスト、授業用ノート、予習・復習ノート、 ※上記のものを適宜課して、評価材料とする。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	外国語の音声、語彙、表現、文法、言語の働きについて理解を深め、聞く、読む、話す、書くのコミュニケーションで、目的や場面に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、日常的・社会的な話題について、外国語で情報や考え、要点、意図を的確に理解し、適切に表現・伝達している。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	外国語の文化を理解し、聞き手や話し手に配慮しながら、主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 1 Wonderland Lesson 1,2	ビニール傘の廃棄が環境に与える影響を理解し、代替案や再利用についてのアイデアを英語で発信する力を身につける。（Grammar：文型）	小テスト		
	5	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 2 Wonderland Lesson 3	かつて鏡が生まれた背景を元に、その心理や文化への影響を学ぶ。実験を通じて得た新しい視点を英語で説明できるようにする。（Grammar：助動詞）			ワークシート提出
		中間考査				
	6	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 3 Wonderland Lesson 4,5	自分の適性を理解し、職業選択の重要性を学ぶ。自己分析を英語で行い、自分の進むべき道を表現する力を身につける。（Grammar：不定詞）		スピーチ	
		期末考査				
2 学期	7	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 4 Wonderland Lesson 6	郵便切手の歴史的意義を理解し、変化について考える。年表や討論を英語で行い、意見を効果的に伝える力を高める。（Grammar：不定詞）			ワークシート提出
	9	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 5 Wonderland Lesson 7,8	自然が技術に与える影響を学び、新幹線の設計や新技術の可能性について英語で考え、説明できるようにする。（Grammar：分詞）	小テスト	スピーチ	
	10	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 6 Wonderland Lesson 9	獣医の動物救助や平和への取り組みを学び、英語で共生意識についての考えを表現できるようにする。（Grammar：比較）			ワークシート提出
	11	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 7 Wonderland Lesson 10,11	スパルタとアテネの違いを学び、軍事的な生活や自由について比較する。両者の特徴を英語で深く説明できる力を身につける。（Grammar：関係詞）		スピーチ	
		期末考査				
	12	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 8 Wonderland Lesson 12	ゴリラが赤ん坊を救った背景を考え、動物の優しさや保護の重要性を学ぶ。英語で自分の意見を明確に述べられるようにする。（Grammar：関係詞）			ワークシート提出
3 学期	1	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 9 Wonderland Lesson 13,14	日本とアメリカの文化の違いを考え、多様性や伝統の利点を比較する。英語で意見を表現し、多文化共生について議論できる力を養う。（Grammar：仮定法）	小テスト		
		学年末考査				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業では、文化、歴史、環境など多様なテーマを学びながら、英語のスキルを高める機会を提供します。各課題に積極的に取り組み、自分の考えを英語で明確に表現しよう。理解を深め、表現力を磨くことで、英語での自信をつける力をつけよう。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	英語演習β	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	-	-	3
学習の目標	〔聞くこと・読むこと・話すこと（会話）・話すこと（発表）・書くこと〕の演習を通して、コミュニケーション能力を向上させ、英語を通じて積極的な対話を育む姿勢を養う。情報や考えを正確かつ適切に理解し、効果的に伝達するスキルを身につけ、自己表現の幅を広げることを目指す。					
使用教材	教科書：「GROVE ENGLISH COMMUNICATION III」（文英堂） 副教材：「WIDE ANGLE」 BOOK 4 （美誠社）					
評価	評価法	定期考査、課題考査 小テスト、授業用ノート、予習・復習ノート、 ※上記のものを適宜課して、評価材料とする。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技能	外国語の音声、語彙、表現、文法、言語の働きについて理解を深め、聞く、読む、話す、書くのコミュニケーションで、目的や場面に応じて適切に活用できる技能を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて、日常的・社会的な話題について、外国語で情報や考え、要点、意図を的確に理解し、適切に表現・伝達している。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	外国語の文化を理解し、聞き手や話し手に配慮しながら、主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 1 WIDE ANGLE Lesson 1, 2	ドッグケアサービスについて学び、犬を世話するための基本的な知識を身につける。これらを英語で表現する練習を通じて、ペットケアに関する語彙を増やす。（Grammar：時制）	小テスト 定期考査	パフォーマンステスト	ワークシート
	5	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 2 WIDE ANGLE Lesson 3	世界銀行の役割やその国際的な影響について学ぶ。英語の専門用語を使って説明し、グローバルな視点を広げる力を養う。（Grammar：助動詞）			
	6	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 3 WIDE ANGLE Lesson 4, 5	オンラインショッピングの利便性と課題について考える。これらの内容を英語で比較したり意見を述べる練習を行い、日常生活に関連する語彙を習得する。（Grammar：態）			
	7	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 4 WIDE ANGLE Lesson 6	ガリレオの科学的功績を学び、彼の発見を英語で説明する。科学に関連する英語表現を用いて、論理的に話すスキルを養う。（Grammar：不定詞）			
2学期	9	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 5 WIDE ANGLE Lesson 7, 8	日本の喫煙事情とそれが社会に与える影響について考察する。これを英語で議論する練習を通じて、健康や社会問題に関連する表現を学ぶ。（Grammar：分詞）	小テスト 定期考査	パフォーマンステスト	ワークシート
	10	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 6 WIDE ANGLE Lesson 9	シルクロードの歴史的背景やその重要性について学ぶ。この歴史を英語で紹介し、文化交流や貿易に関する語彙を身につける。（Grammar：関係詞）			
	11	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 7 WIDE ANGLE Lesson 10, 11	食物アレルギーの原因や対応について学ぶ。自分の経験や考えを英語で説明することで、健康関連の語彙を増やす。（Grammar：接続詞）			
	12	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 8 WIDE ANGLE Lesson 12	朝食が体に与える影響を学び、食生活の改善について考える。これを英語で発表し、食習慣に関連する語彙を習得する。（Grammar：特殊構文）			
3学期	1	GROVE ENGLISH COMMUNICATION III Lesson 9 WIDE ANGLE Lesson 13, 14	言語の多様性とその文化的意義について考える。英語で多様性を説明し、異文化理解を深める表現力を養う。（Grammar：仮定法）	小テスト 定期考査	パフォーマンステスト	ワークシート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業では、文化、歴史、環境など多様なテーマを学びながら、英語のスキルを高める機会を提供します。各課題に積極的に取り組み、自分の考えを英語で明確に表現しよう。理解を深め、表現力を磨くことで、英語での自信をつける力をつけよう。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	課題研究 ITライセンス講座	開発	利用	I類	II類	III類
		3	3	-	-	-
学習の目標	2年次におけるプログラミング・ネットワーク管理、ソフトウェア活用・ネットワーク活用の学習を基礎として、情報処理技術者としての基礎的要素を培い、システム開発やエンドユーザの指導的役割を果たすための知識と技術を身につける。					
使用教材	副教材：各自持参の問題集（各種試験のシラバスVer.に対応しているもの）					
評価	評価法	小テスト、振り返りシート、課題レポート、発表など				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	職業人が共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を身につける。		
		②	思考・判断・表現	職業人として、情報機器及びシステムの把握や、業務の遂行及びシステム化を推進するための基礎的な知識を身につける。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	職業人として備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を自発的に学ぼうとする姿勢があり、国家資格取得など、学習に前向きな姿勢を身につける。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	ガイダンス 国家試験の概要理解 目標資格の設定 資格取得に向けた学習計画の作成 資格取得に向けた学習①	・IPA主催の資格試験について理解を深め、自分が目指す資格試験を決定する。 ・1学期の学習計画を立て、目標達成のための計画を確立する。 ・1学期中の受験、合格を目指す。 ・設定した学習計画を基にして、各自が学習を進める。	小テスト	小テスト	振り返りシート  小テスト
	5	資格取得に向けた学習②	・設定した学習計画を基にして、各自が学習を進める。	小テスト	小テスト	振り返りシート  小テスト
	6	資格取得に向けた学習③	・設定した学習計画を基にして、各自が学習を進める。	小テスト	小テスト	振り返りシート  小テスト
	7	資格取得に向けた学習④	・設定した学習計画を基にして、各自が学習を進める。 ・最低でも夏休み中に受験をする。	小テスト	小テスト	振り返りシート  小テスト

2 学 期	8	学習計画の再設定	・受験報告から、今後の取り組みを再設定する。			振り返りシート
	9	課題への取り組み①	・与えられた課題に対して、各自・チームで取り組む。ソフトウェアを活用して実施する。			振り返りシート
	10	課題への取り組み②	・与えられた課題に対して、各自・チームで取り組む。ソフトウェアを活用して実施する。			振り返りシート
	11	課題への取り組み③ 課題レポートの作成・提出・発表	・与えられた課題に対して、各自・チームで取り組む。ソフトウェアを活用して実施する。 ・課題レポートの作成・提出・発表			振り返りシート レポート課題
	12	課題レポートの作成・提出・発表	・課題レポートの作成・提出・発表	レポート課題 発表	レポート課題 発表	レポート課題 発表
3 学 期	1	総まとめレポートの作成・提出	・1年間の取り組み・成果・課題について、課題レポートの作成・提出	レポート課題	レポート課題	レポート課題

担当者からのメッセージ（学習方法など）

2年次までの学習を踏まえて、各自が目標設定した試験の合格に向けて頑張ってもらいます。2年次でITパスポート試験に合格した人は、基本情報技術者試験や情報セキュリティマネジメント試験など、さらに上位の資格取得を目指します。

また、外部機関とつながり、各種試験での学習を踏まえた課題に取り組んでもらいます。外部に出ることもあるので、交通費などの費用を負担する可能性があります。

令和7年度

学年	3年生		単位数				
			情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	課題研究 ITクリエイト講座		開発	利用	I類	II類	III類
			3	3	-	-	-
学習の目標	パソコンを利用して画像処理や動画編集をおこなう知識と技術を習得し、創造的な作品を作成する力を身につける。また、パソコンのハードウェアを理解し、処理に応じた構成部品の選択ができる知識を持ち、適切な機器選択ができるようにする。						
使用教材	なし						
評価	評価法	作品提出、レポート提出、振り返りシート					
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	各種ソフトウェア・ハードウェアの知識の習得と作品作りの技術を身につけている。			
		②	思考・判断・表現	作品作りにおいて、最適な操作や問題点の解決をおこなう。より良い作品制作への創造的な発想・表現を試みる。			
		③	主体的に学習に取り組む態度	作品作り等での自己の果たすべき課題への取り組み方、全体への協力姿勢、知識や技術の協動的な伝授をおこなう。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。							

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	パソコンの歴史	ハードウェア、オペレーティングシステムなどに関するパソコンを中心としたコンピュータの歴史と発達を学習する。	レポート提出	レポート提出	レポート提出
	5	画像編集	画像編集ソフトを使用するための知識と技術を習得し、個人作品を作成・発表する。 生徒同士の相互評価をおこなう。	作品提出	作品提出	作品提出
	6 7	動画編集	動画編集ソフトを使用するための知識と技術を習得し、個人作品ならびにグループ作品を作成・発表する。 生徒同士の相互評価をおこなう。	作品提出	作品提出	作品提出
2 学期	9 10	動画編集	動画編集ソフトを使用するための知識と技術を習得し、個人作品ならびにグループ作品を作成・発表する。 生徒同士の相互評価をおこなう。	作品提出	作品提出	作品提出
	11 12	パソコンの構成部品	パソコンの構成部品の役割と性能の違いを理解し、利用に適した構成機器を選択できるようにする。	レポート提出	レポート提出	レポート提出
3 学期	1	探究成果発表会の準備	個人・グループ作品のまとめをおこない、探究成果発表会への取り組みをおこなう。			振り返りシート

担当者からのメッセージ（学習方法など）

パソコンの仕組みを理解し、ソフトウェアを有効に活用する知識と技術を習得して、作品作りを楽しみながら学習を進めます。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	課題研究 観光ビジネスプロジェクト講座	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	3	-	-
学習の目標	生徒自らが主体となり、観光に関わる滋賀県の地域活性化・地域振興に関する課題を発見し、その課題を解決するための取り組みを通じてビジネスの基礎的な知識や技術、思考力、判断力や表現力を身につけるとともに、課題発見・解決能力やコミュニケーション能力等の社会人基礎力を養う。					
使用教材	教科書：使用しない 副教材：使用しない					
評価	評価法	振り返りシート、レポート、活動報告書、発表など				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	企業における事例など、実際の観光ビジネスと関連付けられており、ビジネスの様々な場面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身につける。		
		②	思考・判断・表現	観光ビジネスをはじめとした様々な知識・技術などを発見するとともに、観光ビジネスに関する課題を設定し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、根拠に基づいて工夫して解決できる手段が考えられている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	観光ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して、自ら学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者意識を持ち、他者と積極的に関わり観光の振興策の考案と実施に責任をもって取り組んでいる。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	ガイダンス 意向、講座別による活動	講座心得、日誌記録、自己評価について ヒット商品開発講座 観光ビジネス講座 起業家養成講座	報告書 振り返りシート	振り返りシート	
	5	意見・アイデアのまとめかた	ブレインストーミングやKJ法などの、意見の出し方・まとめ方を身につける。	報告書	振り返りシート	
	6	各講座の取り組み	講座目標達成を目指し、取り組み・発表などを行う。			発表
	7	1学期のフィードバック	事故の反省点・課題をみつけ、来学期に改善しようとする姿勢を身につける。			発表

2 学 期	9	引き続き、講座別による活動 各講座の取り組み	講座目標達成に向けた、取り組み・発表など総合的に行う。	報告書	振り返りシート	
	10	ヒット商品開発講座 ・地元企業と協力し、観光に関する地域活性化につながる商品の開発				
	11	観光ビジネス講座 ・高齢者等を対象とした観光旅行等企画・実施		報告書	レポート	発表
		起業家養成講座 ・地域活性化につながるビジネスモデルの提案。 ・大商マルシェの企画・実施。 ・瀬田工業・湖南農業高校との3校連携事業。				
12	2学期のフィードバック 研究まとめ	自己の反省点・課題をみつめ、改善しようとする姿勢を身につける。			発表	
3 学 期	1	引き続き、講座別による活動	個人レポートの制作に取り組む。 探究成果発表会に向けた取り組み。	報告書	振り返りシート	発表

担当者からのメッセージ（学習方法など）

特に2学期（10月、11月）の週末は、校外へ出でのイベント開催になる予定です。  
また、調査、インタビュー等の経費・交通費は実費となります。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	課題研究 会計エキスパート講座	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	-	3	-
学習の目標	全国商業高等学校協会主催財務諸表分析検定の取得を目指すとともに、実際の企業が公開している有価証券報告書の数値や企業に関するニュース等経営情報から業績分析をし、経営改善策を考察する力を身に付ける。					
使用教材	副教材： 全商会計実務検定試験テキスト 財務諸表分析 (実教出版)					
評価	評価法	活動報告書、テスト、研究発表など				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	学習内容を理解し、的確な回答が導き出すことができる。(テスト・レポート)		
		②	思考・判断・表現	学習した内容をわかりやすくまとめ表現できているか。(テスト・発表)		
		③	主体的に学習に取り組む態度	積極的に興味や関心を持ち活動ができている。(活動報告書)		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1~5の5段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	ガイダンス 第1部 財務諸表分析の理論	・財務諸表の種類と入手方法 ・財務諸表の読み方			活動報告書
	5	第2部 企業管理と株主のための分析	・収益性の分析 ・安全性の分析	テスト	テスト	活動報告書
	6	第3部投資のための分析 第4部財務諸表分析の実際	・企業価値の分析 ・企業間比較の実践 ・期間比較の実践			活動報告書
	7	↓		テスト	テスト	
2 学期	9	企業情報の収集・分析 研究対象企業の決定 研究企業の会計数値分析	・企業に関するニュース等情報集・分析 ・収集した企業に関する情報をもとに、研究対象企業を決定、併せて分析する方針を決定 ・企業の有価証券報告書を入手し、経営分析			活動報告書
	10	業績分析	・会計分析と企業に関するニュースとの関連性を考察し、企業の戦略分析を実施	レポート	中間発表	活動報告書
	11	↓				
	12	租税教室 企業業績分析結果報告	・近畿財務局・大津税務署から講師を招聘して財政等について講義及びワークショップ ・企業分析結果についてレポート提出 ・企業分析結果について講座内でプレゼンテーションを実施 <個人研究発表予定>	レポート	個人研究発表	活動報告書
3 学期	1	企業分析結果の集約 業績分析結果報告	・個々の企業分析結果を合わせて、総合的な分析 ・結果をまとめレポートを作成 ・プレゼンテーション資料の作成・発表 <研究発表予定>	レポート	研究発表	活動報告書

担当者からのメッセージ(学習方法など)

企業の有価証券報告書及び企業に関するニュース等経営情報から業績分析をし、企業に対してよりよい戦略の提案ができる力を身に付けられるよう、日頃からニュースなど情報収集をして経済に興味を持ってください。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	課題研究 グローバルビジネス講座	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	-	-	3
学習の目標	地域が抱える課題を発見し、グローバル(Global+Local)な視点で課題解決を図る取り組みを考え、検証・考察する。課題解決へ向けた学習を通して専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。					
使用教材	副教材：事例探究ワークブック 観光・地域活性化編（実教出版）					
評価	評価法	活動報告書・レポート・パフォーマンス課題（プレゼンテーション）、振り返りシートで評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	課題解決や目標達成に必要な知識を身につけるとともに、その内容を理解している。 課題解決や目標達成に必要な技術を身につけている。		
		②	思考・判断・表現	課題解決や目標達成に必要な情報の収集、計画の設定・改善および学習活動の工夫に関する思考や判断ができる。課題や目標の成果を適切に表現できる。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの視点に立ち、主体的かつ協働的に取り組み、課題および目標の設定をしようとしている。さらに、課題解決および目標達成に向けた方法を自ら工夫し、計画・実行・改善しようとする態度がみられる。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	ガイダンス	・年間スケジュール・評価について ・観光と観光ビジネス ・SDGs、MLGsと地域活性化 ・ソーシャルビジネスとは ・地域の魅力・地域が抱える課題を知る	報告書 レポート	報告書 レポート	
	5	地域課題解決プロジェクト 仮説	・外国人との関わり方を学ぶ ・ビジネスの視点で解決方法を探る  ・グループごとに仮説を立てる ・仮説の絞り込み、仮説の決定	報告書	報告書	報告書
	6	検証方法 フィールドワーク 1学期まとめ	・ビジネスプランの作成 ・検証方法の決定 ・調査計画を立てる ・インタビューやFormsアンケート調査 ・中間報告会	報告書 レポート	報告書 レポート	発表 評価 シート
	7	検証	・フィールドワークの振り返り学習 ・ビジネスプランの検証準備 ・夏季休業中に下見を行い、現地調査・打ち合わせ			報告書
2学期	9	検証	・下見報告会 ・ビジネスプランの検証準備	報告書	報告書	発表 評価 シート
	10	検証	・外国人対象のビジネスを実施（コト消費）	報告書	報告書	報告書
	11	考察 まとめ	・事後アンケート調査の実施 ・分析、振り返り	レポート 報告書	レポート 報告書	レポート 報告書
	12	まとめ 発表準備	・分析、振り返り、考察 ・探究成果発表会に向けての準備	レポート 報告書	レポート 報告書	発表 評価 シート

3 学期	1	発表準備 探究成果発表会	・探究成果発表会に向けての準備 ・一年間の学びをまとめ、伝える	レポ ート 報告書	レポ ート 報告書	レポ ート 報告書
---------	---	-----------------	------------------------------------	-----------------	-----------------	-----------------

担当者からのメッセージ（学習方法など）

特に2学期（10月末）の週末は、校外へ出でのツアー（イベント）開催になる予定です。  
また、調査、インタビュー等の経費・交通費は実費となります。  
地域課題をグローバル（Global+Local）な視点で捉え、各自が主体的、協働的に取り組みながら解決を目指しましょう。

令和7年度

学年	3年生		単位数				
			情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	課題研究 ソーシャルビジネス講座		開発	利用	I類	II類	III類
			3	3	3	3	-
学習の目標	商業の見方・考え方をはたらかせ、実践的・体験的な学習活動を通して、地域社会、経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。 生徒自らが主体となり、地域社会の課題解決に向けた取り組みを通じて、ビジネスの基礎的な知識や思考力、判断力や表現力を身に付けるとともに、社会人基礎力を育む。						
使用教材	なし						
評価	評価法	小テスト・パフォーマンス課題（レポート・発表）・活動報告書・相互評価 など					
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	商業の各分野について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。			
		②	思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			
		③	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ共同的に取り組む態度を養う。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。							

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	●ガイダンス (以降班別による活動)	・講座目標、評価方法について			
	5	●意見、アイデアの出し方、まとめ	・課題の発見、調査 ・課題の設定 ・情報の収集、整理、分析	小テスト	レポート・発表	活動報告書・相互評価
	6	●活動班別の取り組み	・解決策の提案 ・各活動班の情報共有・意見を取り入れ、より具体的な解決策を完成させる。			
2 学期	7					
	9	●活動班別の取り組み	・解決策の実行 (商品開発・イベント実施)	小テスト	レポート・発表	活動報告書・相互評価
	10		・新たな探究の過程の繰り返し			
	11		・研究のまとめ			
12						
3 学期	1	●活動班別の取り組み	・研究のまとめ ・課題研究発表会	小テスト	レポート・発表	活動報告書・相互評価

担当者からのメッセージ（学習方法など）

地域魅力デザイン班は地域の課題を調査、発見し、各自で課題設定を行い、その解決策の一助となる商品を開発します。  
 地域体験プランニング班は地域の課題を調査、発見し、各自で課題設定を行い、その解決策の一助となるイベントビジネスを考えイベントを開催します。  
 ※土曜日・日曜日・祝日および長期休業中（夏休み）も活動します。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	課題研究 ファイナンシャル・プランナー講座	開発	利用	I類	II類	III類
		3	3	3	3	-
学習の目標	日本ファイナンシャル・プランナーズ協会が主催している3級ファイナンシャル・プランニング技能士（国家資格）の取得を目指すとともに、家計管理、生活設計などの人生設計ができるようになるための知識を身に付ける。また、投資や税といった金融リテラシーも身に付ける。					
使用教材	副教材：ファイナンシャルプランナー3級テキスト（TAC出版） ファイナンシャルプランナー3級問題集（TAC出版）					
評価	評価法	振り返りシート、ピア評価、小テスト、発表など				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	学習内容を理解し、的確な回答を導き出すことができる。（小テスト） 学習した内容を他社が理解できるようアウトプットできる知識が身についている。（グループ発表）		
		②	思考・判断・表現	学習した内容を他社が理解できるようアウトプットできている。（グループ発表）		
		③	主体的に学習に取り組む態度	積極的に興味や関心を持ちグループ活動ができている。（振り返りシート・ピア評価）		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	ガイダンス ●ライフプランニングと資金計画	F Pとライフプランニング 教育・住宅取得資金計画 社会保険	小テスト	グループ発表	振り返りシート ピア評価
	5	●ライフプランニングと資金計画	公的年金生徒の概要 公的年金生徒の概要 老後の生活資金設計と公的年金 公的年金における遺族給付 企業年金・自営業のための年金 ライフプランニングの考え方 <グループごとの発表予定> <内容に応じた外部講師による講義を実施予定>	小テスト	グループ発表	振り返りシート ピア評価
	6	●リスク管理	リスクマネジメント 保険制度全般 生命保険の概略 損害保険の概略 損害保険商品の種類と内容 <グループごとの発表予定> <内容に応じた外部講師による講義を実施予定>	小テスト	グループ発表	振り返りシート ピア評価
	7	●リスク管理 ●1学期学習内容アウトプットの取り組み	個人の契約に関する税金 法人の契約に関する税金 第三分野の保険・共済 小学校出前授業の準備・授業 <外部講師による小学生向け講義の指導予定> <近隣の小学校を訪問し出前授業の予定>	小テスト	グループ発表	振り返りシート ピア評価
2 学期	9	●1学期学習内容アウトプットの取り組み	小学校出前授業の準備・授業 <外部講師による小学生向け講義の指導予定> <近隣の小学校を訪問し出前授業の予定>	グループ発表	グループ発表	振り返りシート ピア評価

2 学 期	10	●1学期学習内容アウトプットの取 り組み	小学校出前授業の準備・授業 <外部講師による小学生向け講義の指導予定> <近隣の小学校を訪問し出前授業の予定>	グルー プ発表	グルー プ発表	振り返 りシー ト ピア評 価
	11	●金融資産運用	マーケット環境の理解 債権 株式	小テス ト	グルー プ発表	振り返 りシー ト ピア評 価
	12	●タックスプランニング ●不動産	所得税の仕組み 各種所得税の内容 課税標準の計算 不動産の取引 不動産に関する法令上の制限 不動産に係る税金	小テス ト	グルー プ発表	振り返 りシー ト ピア評 価
3 学 期	1	●相続・事業承継	相続と法律 贈与と税金 相続と税金	小テス ト	グルー プ発表	振り返 りシー ト ピア評 価

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「お金のエキスパート」を目指して、グループ学習を中心にインプット、アウトプットをしながら学習を進め、国  
家資格も目指してください。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	総合実践	開発	利用	I類	II類	III類
		4	4	4	4	4
学習の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付ける。</p> <p>(1) 商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>					
使用教材	オリジナル教材					
評価	評価法	(知識・技術) 定期考査・確認テスト(思考・判断・表現) 定期考査・確認テスト・レポート・プレゼンテーション (主体的に学習に取り組む態度) 授業日誌・レポート・振り返りシート・実習点				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する知識や技術を身につけているか		
		②	思考・判断・表現	ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしたか		
		③	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスの実務に対応する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組んだか		
<p>上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点(1~5の5段階)にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。</p>						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	ガイダンス ビジネスマナー実習 敬語/電話応対 グループ・部署の振り分け	授業の心構えや、身だしなみ、挨拶指導 接客販売に関わるビジネスマナーを、ケースメソッドを取り入れて実践的に身につける 尊敬語や謙譲語、丁寧語を、ケースメソッドを取り入れて実践的に身につけるとともに、今後の取引先との交渉のために、電話対応のマナーを身につける 講座内をいくつかの会社に分け、社長/営業部/広告宣伝部/経理部の役割に振り分ける			日誌 日誌 日誌 日誌
	5	トレンドリサーチ 業種と業態 セグメンテーションとターゲティング 中間考査 データ分析と商品計画	最近のトレンドを調査し発表することで、リサーチ力とプレゼンテーション能力を身につけるとともに、チームとして活動する基盤を構築する 業種(何を売るか)と業態(どのように売るか)を学ぶ ターゲットを絞った商品計画を構築するために、TPOに応じた実用的なセグメンテーションとターゲティングの知識を身につける 昨年度のデータを分析し、そのデータを基に自社の商品計画、特に事業目的や取扱商品などを検討する	定期考査	定期考査	日誌 日誌 日誌 日誌 日誌 日誌 日誌 日誌
	6	商品計画 商品プレゼン/取引先の決定 会社名の決定/名刺の作成	事業目的やその目的に至った背景、それに基づいた事業内容や取引先と取扱商品を検討するとともに、商品プレゼンテーションの準備を進める 上記の商品計画をプレゼンテーションし、会社の取引先を決定する 事業目的や社員の想いを込めた会社名を考案・決定し、名刺を作成する。		プレゼン	日誌 日誌 日誌 日誌 日誌 日誌 日誌
	7	夏休み計画 講演会の実施	夏休みに取引先へ行って打ち合わせを行うための計画を立てる 外部講師を招聘し、講話からビジネスについて学ぶ		レポート	日誌 振り返り 日誌 レポート

2 学期	9	<p>模擬株式会社の設立／定款の作成</p> <p>広告デザイン</p> <p>ポジショニングとプロモーション</p> <p>利益計画／販売計画／仕入計画</p>	<p>定款を作成し、会社名や事業内容、利益の用途などを決定する</p> <p>効果的な広告が製作できるように、店舗広告やPOP広告のデザイン、色彩などの知識や技術を身につける</p> <p>惹きつけられる広告にするために、効果的なプロモーションの内容と、そのための自身の強みを把握する</p> <p>過去データや来場者予測、目標獲得利益額から販売数や仕入数を設定する</p>	確認 テスト	確認 テスト	<p>日誌</p> <p>日誌</p> <p>日誌</p> <p>日誌</p>
	10	<p>社員マニュアル説明／見積依頼書の作成・送付</p> <p>販売準備</p>	<p>仕入商品に対する見積依頼書を作成し、取引先に送付する。</p> <p>各部署に分かれ、連携しながら販売準備を進める 【営業部】店舗レイアウトや商品配置の立案、販売単価の設定 【広告宣伝部】ポスターやPOP広告の製作 【経理部】レジや会計オペレーションの立案 ≪その他≫シフトの作成</p>			<p>日誌</p> <p>日誌</p>
	11	<p>注文書作成</p> <p>店舗レイアウトと店舗オペレーションのシミュレーション</p> <p>最終確認</p>	<p>仕入商品に対する注文書を作成し、取引先に送付する。</p> <p>立案した店舗レイアウトと、お客様の来店から会計までのオペレーションをシミュレーションする</p> <p>当日流れを社内で確認する</p>			<p>日誌</p> <p>日誌</p> <p>日誌</p>
	12	<p>実習直前指導</p> <p>販売実習</p>	<p>接客マナーや当日の過ごし方などを確認・徹底する</p> <p>販売実習12月20日（土）実施</p>			<p>日誌</p> <p>日誌 実習点</p>
3 学期	1	<p>業績報告書の作成</p> <p>振り返り（個人／会社）</p> <p>業績報告会</p>	<p>販売実習における売上高から最終利益まで計算し、その要因などを分析する</p> <p>上記の数値データも含め、準備から実施までの振り返りをし、次年度の改善・反省点をまとめる</p> <p>会社の業績報告や反省点、来年度に向けての改善点等を発表する</p>			<p>日誌</p> <p>日誌 レポート</p> <p>日誌 プレゼン</p>

#### 担当者からのメッセージ（学習方法など）

この授業で最も重要なことは「主体性」と「挑戦」です。まずは自ら考えて自ら率先して行動してください。この授業には「失敗」はありません。全てが「成功への布石」です。何事にも挑戦してください。また、会社という組織・チームで活動していきます。一人が手を抜くと会社全体に影響が及ぶことや、個人の頑張りが会社の成果として現れること、そして協働することの重要性を経験して欲しいと思います。先生と生徒が一体となって、良い授業、良い実習にしていきたいと思います。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	商品開発と流通	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	4	-	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を身に付ける。 (1) 商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。					
使用教材	教科書：商品開発と流通（実教出版）					
評価	評価法	(知識・理解) 定期考査, 確認問題, 小テスト (思考・判断・表現) ワークシート, レポート (主体的に学習に取り組む態度) 振り返りシート				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解し、商品の企画からプロモーションまでの様々な場面で役に立つ商品開発に関する知識と、流通の立場から捉えた取引対象としての商品に関する知識を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	商品開発と流通をはじめとした様々な知識や情報などを活用し、商品開発と流通の動向や課題を発見するとともに、ビジネスに関わる様々な立場に立って、妥当性と課題などの視点から、科学的な根拠に基づいて商品開発と流通に関する計画を立案したり、提案したりしている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら商品開発と流通について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、商品開発と流通に関する学習活動に責任をもって取り組もうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	Introduction 1なぜ商品開発と流通は行われるのか？ 2なぜ『商品開発と流通』を学ぶのか？	・日常生活を送るために、商品は必要不可欠なものであり、それを入手するためには流通も重要であることを理解する。 ・『商品開発と流通』の概要を理解する。	小テスト		
	5	1章 商品開発と流通の概要 1 私たちの生活と商品 2 商品開発の意義と手順 3 商品と流通との関わり 確認問題	・商品の成り立ちおよびその捉え方について理解する。 ・商品開発の意義、新商品の捉え方、商品ライフサイクルについて理解する。 ・商品開発の手順について理解し、学習の見通しをたてる。 ・流通の仕組みについて、事例を調査して考察する。 ・市場環境とマーケティングの変化、流通チャネルの多様化について理解する。	小テスト	レポート	
	6	2章 商品の企画 1 環境分析と意思決定の準備 2 市場調査	・商品の企画に必要な環境分析について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・商品開発の方針を策定し、標的市場を整理して開発する商品テーマを決定することを理解する。	小テスト	レポート	
	7	3 商品コンセプトの策定 4 商品企画の提案 期末考査	・環境分析に基づいて、市場調査を行い、そこから商品の企画に関する課題を発見する。 ・商品コンセプトの内容について理解するとともにブレインストーミングなどの技法を用いて、商品企画につながるアイデアを考える活動を行う。 ・商品コンセプトを考察し、具体的に商品企画書の各項目をまとめる。 ・商品企画書を基にプレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。	定期考査		振り返りシート

2 学 期	9	3章 事業計画の立案 1 事業計画の概要 2 価格計画	・商品開発と流通における事業計画について、その目的や手順について理解する。 ・競争環境や需要予測等に基づいた、価格の設定の考え方を理解する。 ・さまざまな価格政策について、企業における事例と関連付けて考察する。	小テスト	レポート	
	10	3 流通計画 4 プロモーション計画 5 事業計画書の作成 実習 事業計画の立案	・流通チャネルの種類と特徴について理解する。 ・プロモーション計画について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・事業の展開に必要な項目をまとめ、事業計画書を作成する。 ・作成した事業計画書を基にプレゼンテーションを行い、評価、改善を行う。	小テスト	レポート	
	11	4章 商品の開発 1 商品仕様と詳細設計 2 プロトタイプ 4 ブランド 5 知的財産権の登録 3 商品とデザイン	・商品仕様と詳細設計について、企業における事例と関連付けて理解する。 ・プロトタイプの種類と目的について理解する。 ・プロトタイプを用いたテスト及び評価により、課題を書きかかえることを理解する。 ・商品デザインの役割や要素、種類等について理解する。 商品デザインの技法について、具体的な事例と関連付けて分析する。  ・ブランドについて、機能、構成要素等を理解する。 ・知的財産権の内容、重要性について理解する。 ・偽ブランドや偽キャラクター商品等の知的財産権の侵害について、具体的な事例と関連付けて分析、考察する。	小テスト	レポート	
	12	5章 商品の販売 1 販売員活動 2 セールスプロモーション 期末考査	・売員活動について、プロセス、役割等を理解する。 ・セールスプロモーションについて理解し、企業における具体的な事例と関連付けて分類する。	定期考査		振返りシート
3 学 期	1	6章 商品と流通に関わる新たな展開 1 商品開発の新たな展開 2 流通の新たな展開 3 感覚を活かした商品開発・流通 学年末考査	・客ニーズの多様化から、デザイン思考について企業における具体的な事例と関連付けて理解する。 ・流通の新たな展開として情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを理解する。 ・感覚を活かしたプロモーション活動等を、企業における事例と関連付けて考察する。	定期考査		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

授業を通してプレゼンやグループ学習を進めます。欠席しないように。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	選択 観光ビジネス	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	3	-	-
学習の目標	実践的・体験的な学習活動などを通じて、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を身に付ける。 (1) 観光ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 観光ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
使用教材	教科書：観光ビジネス（実教出版） 副教材：事例探求ワークブック 観光・地域活性化編（実教出版）					
評価	評価法	定期考査・活動報告書・レポート・パフォーマンス課題（プレゼンテーション）、振り返りシートで評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	企業における事例など実際の観光ビジネスと関連付けられ、ビジネスの様々な面で役に立つ観光ビジネスに関する知識と技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	観光ビジネスをはじめとした様々な知識、技術などを発見するとともに観光ビジネスに関する課題を発見し、企業活動が社会的に及ぼす影響を踏まえ、根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えられている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら観光ビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者として意見をもち、他者と積極的に関り、観光の振興策の考察と実施に責任をもって取り組んでいる。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	第1章 観光ビジネスの概要	観光ビジネスを学ぶ意義を理解する。  観光ビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。 観光ビジネスの意義と課題について理解する。  観光とビジネスの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。	定期考査	レポート	
	5	第2章 観光ビジネスの主な産業	旅行業、宿泊業、娯楽業など観光ビジネスの各主体に関して、役割や業務などの概要及び関連する法規の概要について学ぶ。  観光とビジネスの関係及び観光ビジネスについて自ら学び、経済や消費者の動向などを踏まえ、観光ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む。 日本の伝統工芸についてまとめ、発表・評価をおこなう。（パフォーマンス課題）  観光とビジネスとの関係及び観光ビジネスの概要について学ぶ。	定期考査	レポート	パフォーマンス
		中間考査				
	6	第2章 観光ビジネスの主な産業	観光情報の発信、観光キャンペーンの実施、対象となる顧客や顧客の居住地域などを踏まえたプロモーションなど実際の観光ビジネスにおけるマーケティングの特徴について扱い、具体的な事例を用いて分析し、考察する学習活動をおこなう。	レポート	パフォーマンス	
		期末考査				

1 学期	7	第3章 観光ビジネスのマーケティング	DMOについて学び、観光をビジネスとして成り立つようにツーリズムの立案・発表をおこなう。(パフォーマンス課題)  観光ビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して発表し、評価・改善する。 観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	定期考 査  レポー ト	レポー ト	パ フォー マン ス
	9	第3章 観光ビジネスのマーケティング	観光ビジネスにおけるマーケティングに関する課題を踏まえ、根拠に基づいて、観光ビジネスにおけるマーケティング計画を立案して実施し、評価・改善する。 観光ビジネスにおけるマーケティングについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	レポー ト	レポー ト	レポー ト
2 学期	10	第4章 観光資源の発見と活用	観光資源と観光政策について学ぶ。  観光資源の活用に関する課題を発見し、それを踏まえ、根拠に基づいて、観光資源の活用に関する計画を立案して実施し、評価・改善をする。 観光資源と観光政策について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。	定期考 査	定期考 査	レポー ト
	11	第5章 地方自治体の観光政策	インパウンド観光客を呼び込む旅行プランを立案。発表・評価する。(パフォーマンス課題)  地方自治体の観光政策について学ぶ。 地元の観光政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、根拠に基づいて、観光政策を立案し、評価・改善する。 地元の食材にスポットを当て、地産地消の観点から旅行プランを立て、評価・改善する。	定期考 査	パ フォー マン ス	パ フォー マン ス
		期末考査				
	12	第5章 地方自治体の観光政策	地方自治体の観光政策について自ら学び、観光による地方創生や地域の活性化などを踏まえ、持続可能な観光政策に主体的かつ協働的に取り組む。(パフォーマンス課題)	レポー ト	レポー ト	パ フォー マン ス
3 学期	1	第6章 観光ビジネスと観光まちづくり	観光による地域の活性化について学ぶ。 観光による地域の活性化に関する課題を発見し、根拠に基づいて、観光による地域の活性化に関する計画を立案し、評価・改善する。  旅行したい人と地域の課題のマッチングを踏まえた旅行プランの立案・評価をおこなう。	定期考 査  レポー ト	定期考 査	レポー ト
		学年末考査				

担当者からのメッセージ（学習方法など）

「観光ビジネス」を地域の現状の中で学び、地域の現状を日本や世界と結びつける知識を得ることは、地域で役立つ力をつけることに繋がります。観光への理解を持つ人を増やすことは観光業に限らず、大切なことだと思います。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	グローバル経済	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	-	-	4
学習の目標	<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、グローバル化する経済社会におけるビジネスの展開に必要な資質・能力を次のとおり養う。</p> <p>(1) 経済のグローバル化について実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。</p> <p>(2) 経済のグローバル化への対応に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>					
使用教材	教科書：グローバル経済（実教出版）					
評価	評価法	(知識・理解) テスト(思考・判断・表現) ワークシート・レポート (主体的に学習に取り組む態度) 振り返りシート, ワークシート				
	評価観点の趣旨	① 知識・技術	企業における経済のグローバル化への対応など実務と関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つ経済に関する知識を身に付けている。			
		② 思考・判断・表現	経済のグローバル化をはじめとした様々な知識などを活用し、企業における経済のグローバル化への対応に関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、経済に関する理論やデータ、ビジネスに関する成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。			
		③ 主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら経済について学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経済社会の動向を踏まえて経済のグローバル化に対応したビジネスの展開に責任をもって取り組もうとしている。			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1学期	4	第1章 グローバル化が進展する社会 1. 国境を超えて広がる世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化と国際化の違いについて理解し、グローバル化する現在の社会について理解を深める。</li> <li>・金融、企業、社会の多様性とグローバル化の関連について考える。</li> <li>・地域経済統合の意義について学ぶ。</li> </ul>	小テスト	レポート	
	5	2. グローバル化する社会 3. グローバル化と地域経済統合の動き 4. グローバル化と経済発展 5. グローバル化の諸問題		小テスト		
			中間考査		定期考査	
	5	第2章経営のグローバル化 1. 多国籍企業とグローバル経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多国籍企業のグローバル経営について理解し、企業がグローバル化する理由について考える。</li> <li>・企業が海外進出するにあたっての方法や難しさなどを学ぶ。</li> </ul>		レポート	
	6	2. 企業の海外進出とグローバル経営の難しさ		小テスト		

1 学期	7	3. グローバル経営の現状 4. グローバル経営の課題 5. グローバル化に伴う企業の社会的責任	・マザー工場システムや海外拠点の役割について理解し、グローバル化の問題点について学ぶ。 ・グローバル経営における課題を把握し、対応策について考える。 ・グローバル経営を進めるにあたって求められる企業の社会的責任について理解する。 章末の実習に取り組む。	小テスト 小テスト	レポート	振り返りシート
		期末考査		定期考査		
2 学期	9	第3章 経済のグローバル化 1. 人材のグローバル化	・経済のグローバル化における人材（ヒト）の状況を外国人労働者や賃金の観点を含めて理解する。		レポート	振り返りシート
	10	2. 財とサービスのグローバル化	・自由貿易と国際分業の観点をもとに、経済のグローバル化における財（モノ）のやり取りに関して、二国間協定や地域経済統合の意義を学ぶ。	小テスト		
		3. 金融のグローバル化	・金融の役割や形態、金融商品、金融機関等について学び、日本における金融の現状と外国為替に関する知識を学び、金融（カネ）のグローバル化について理解する。	小テスト		
	11	4. 情報のグローバル化	・情報通信技術の発達と個人情報のあり方についての視点から、情報のグローバル化について理解する。 章末の実習に取り組む。		レポート	振り返りシート
12	第4章 市場と経済 1. 需要と供給による市場の理論	・需要と供給に着目した市場に関する理論について理解し、現実の社会における市場の役割と課題について学ぶ。	小テスト	レポート		
	2. 経済成長	・GDPについて理解し、マクロ的な視点から経済成長について学ぶ。	小テスト		振り返りシート	
		期末考査		定期考査		
3 学期	1	3. 景気循環とインフレーション 4. 経済政策	・景気循環のしくみについて理解し、その弊害について考察する。 ・経済政策における政府の役割について学び、現状と問題点について理解する。 章末の実習に取り組む。	小テスト	レポート	
		学年末考査		定期考査		

担当者からのメッセージ（学習方法など）

世界を視野に経済のグローバル化に適切に対応して、様々な視点から経済社会の動向や経済に関する理論などを関連付けて分析し、外国語を通じた考察や討論を行い、グローバル化する経済社会の中で、ビジネスに必要とされる高い専門力を磨こう。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	財務会計Ⅱ	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	-	4	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を養う。					
使用教材	教科書：財務会計Ⅱ（TAC出版） 副教材：全商財務会計検定試験論点別ニューステップアップ模擬＋過去問題集（TAC出版）					
評価	評価法	定期考査・小テスト・問題集で評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業及び企業の経営判断を分析する力を身に付け、他者にとって分かりやすい表現で考察ができています。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、国際的な会計基準を踏まえた適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	第1章 財務諸表の作成と表示の考え方	財務報告の目的、財務諸表の構成要素とこれらの認識と測定について学習する			小テスト
		第2章 資産負債アプローチと収益費用アプローチ	2つの会計上の利益の算定方法についてそれぞれの考え方と2つの違いについて学習する			小テスト
		第3章 会計基準の国際的統合	グローバル化が進んだ現代における、会計基準の国際化についてその特徴と基準作成の国際的な動きについて学習する			小テスト
		第4章 金融商品	金銭債権・債務の発生・消滅・評価および貨幣の時間価値について学習する			小テスト
		第5章 外貨建取引	円貨以外の貨幣単位で表示されている取引の処理方法について学習する			小テスト
		第6章 デリバティブ取引	先物取引、スワップ取引、オプション取引について、その仕組みと会計処理について学習する			小テスト
		中間考査		定期考査	定期考査	問題集
	5	第7章 様々な商品売買取引	特殊商品売買取引の考え方とその会計処理について学習する			小テスト
		第8章 工事契約	長期請負工事に関する収益の認識に関する基準及びその会計処理について学習する			小テスト
		第9章 有形固定資産	複数の不動産についてまとめて減価償却をする総合償却と国庫補助金を活用して購入した有形固定資産の記帳方法について学習する			小テスト

1 学期	6	第10章 リース取引 第11章 研究開発費とソフトウェア 第12章 固定資産の減損 第13章 社債 第15章 資産除去債務	リース取引の種類とそれぞれの会計処理について借り手側・貸し手側の両方の立場について学習する 研究開発費とプログラムなどのソフトウェアの制作費に関する会計処理について学習する 固定資産の市場価値の急落による減損に関する処理方法を学習する 長期の資金調達方法である社債の発行から償還（返済）までの一連の会計処理について学習する 契約期間終了時にかかる固定資産の撤去費用に関する会計処理について学習する			小テスト 小テスト 小テスト 小テスト 小テスト
		期末考査		定期考査	定期考査	
	7	第14章 退職給付会計 第16章 純資産	退職給付額の毎期負担額を合理的に見積もる方法について、学習する 純資産の分類と株主資本の計数の変動について学習する			小テスト 小テスト
2 学期	9	第17章 新株予約権 第18章 スtock・オプション 第19章 分配可能額 第20章 税効果会計 第21章 キャッシュ・フロー計算書	新株予約権について発行、権利行使、権利行使されずに有効期限に達した場合の会計処理について学習する 従業員や経営者が、会社が決めた価格で自社株を購入できる権利の会計処理について学習する 企業が株主に支払う配当額の限度額の計算方法について学習する 会計上の利益計算と税法上の所得計算の差異とその調整方法について学習する 企業の現金の動きを把握するために作成するキャッシュ・フロー計算書の仕組みとその作成方法について学習する			小テスト 小テスト 小テスト 小テスト 小テスト
	10	第22章 企業結合会計 第23章 連結財務諸表（その1） 第24章 連結財務諸表（その2）	複数の企業が1つの報告単位となる企業結合の3つの形態とその会計処理について学習する 連結財務諸表の作成手順について支配獲得日及び連結1期目の会計処理について学習する 支配獲得までの株式の段階取得、支配獲得日後の追加取得、子会社株式の一部売却に関する会計処理について学習する			小テスト 小テスト 小テスト
	11	第25章 連結財務諸表（その3）	連結税効果会計および、連結財務諸表の作成方法について学習する			小テスト
	12	第26章 持分法	連結子会社以外の会社の業績をグループ全体の業績に反映するための会計処理について学習する			小テスト
		期末考査		定期考査	定期考査	問題集
3 学期	1	第27章 財務諸表分析 第28章 監査と職業会計人	財務諸表を利用して企業価値を算定する様々な分析方法について学習する 監査の仕組みと流れ、監査の品質を担保する仕組みや監査人の責務について学習する			小テスト 小テスト
		学年末考査		定期考査	定期考査	問題集

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1、2年生で学習した簿記および財務会計Ⅰをより深化させた内容となっています。2年間の内容をしっかり復習して、財務会計Ⅱの授業に臨んでください。  
問題集等を利用して学習を進めていきます。授業の内容の復習を時間が終わるごとにする習慣を身に付けていって下さい。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	選択 原価計算	開発	利用	I類	II類	III類
		-	3	3	-	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を養う。					
使用教材	教科書：原価計算 新訂版（実教出版） 副教材：反復式 原価計算問題集 全商1級原価計算（実教出版）					
評価	評価法	定期考査、小テスト、ノート、問題集などで評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。		
		②	思考・判断・表現	原価計算，原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥当性と課題を見だし，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び適切な原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び，適切な原価情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	第1章 原価と原価計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業簿記は製造業に適用されるものであることを理解する。</li> <li>工業簿記と原価計算の関係を理解する。</li> <li>原価の意味（製造原価・総原価）を理解する。</li> </ul>			小テスト
		第2章 原価計算のあらまし	<ul style="list-style-type: none"> <li>原価要素の性格とその分類について理解する。</li> <li>原価要素の集計のしかたと原価計算表の役割を理解する。</li> <li>原価計算の四つの目的について理解する。</li> <li>原価計算の手続きについて理解する。</li> <li>原価計算期間について理解する。</li> <li>原価計算の種類を理解する。</li> </ul>			小テスト
		第3章 工業簿記-製造業における簿記-	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業簿記における勘定記入の特徴を理解する。</li> <li>工業簿記に特有な勘定科目とそれぞれの記帳方法を理解する。</li> <li>工業簿記の一連の記帳手続を学習させることにより，全体的な構造を理解する。</li> </ul>			小テスト
		第4章 材料費の計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料費の分類とその内容を理解する。</li> <li>材料費の仕入れと記帳方法，元帳への転記を理解する。</li> <li>材料の保管について理解する。</li> <li>棚卸減耗の意味とその処理方法を理解する。</li> <li>材料の消費と記帳方法，原価元帳への記入方法について理解する。</li> <li>材料の消費単価と消費数量の計算方法について理解する。</li> <li>予定価格により，消費高を計算することの意味，予定価格を用いた二通りの記帳法を理解する。</li> </ul>			小テスト

1 学 期	5	第5章 労務費の計算  中間考査  第6章 経費の計算  第7章 個別原価計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労務費の分類とその内容を理解する。</li> <li>・賃金支払高の計算と記帳方法を理解する。</li> <li>・賃金消費高の計算と記帳方法を理解する。</li> <li>・予定賃率による消費賃金の計算と記帳方法を理解する。</li> <li>・賃金以外の労務費の種類、その計算と記帳方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経費の意味とその分類を理解する。</li> <li>・経費の消費高の計算と記帳方法を理解する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別原価計算のしくみを理解する。</li> <li>・原価計算表の記入方法を理解する。</li> <li>・原価元帳と製造勘定との関係を理解する。</li> <li>・製造間接費の配賦についての概要を理解する。</li> <li>・実際配賦率による配賦の欠点を学習し、予定配賦率による配賦を理解する。</li> <li>・製造間接費の差異分析を理解する。</li> <li>・仕損品・作業くずの処理を理解する。</li> </ul>	定期考査	定期考査	小テスト 問題集  小テスト  小テスト
	6	第8章 部門別個別原価計算  期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部門別個別原価計算の必要性を理解する。</li> <li>・原価部門の設定について部門別計算の目的から考えさせ、各部門の役割を理解する。</li> <li>・部門別個別原価計算の手続きの全体の流れを理解する。</li> <li>・部門費配分表、部門費振替票を作成させ、それぞれにもとづく仕訳を、マスターする。</li> <li>・製造部門費予定費配賦表を作成させ、それぞれにもとづく仕訳を、マスターする。</li> <li>・部門別個別原価計算の全体的な流れを再確認する。</li> </ul>	定期考査	定期考査	小テスト 問題集
	7	第9章 総合原価計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産形態の違いから、原価計算の方法も異なることを理解する。</li> </ul>			小テスト
2 学 期	9	課題考査 第9章 総合原価計算  第10章 工程別総合原価計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別原価計算と総合原価計算の違いを明らかにする。</li> <li>・総合原価計算の種類を理解する。</li> <li>・単純総合原価計算が用いられる製造業の特徴と手続きの流れを理解する。</li> <li>・月末仕掛品完成品換算数量・加工費・加工進捗度などの用語の意味を理解する。</li> <li>・平均法と先入先出法による月末仕掛品原価の計算をマスターする。</li> <li>・単純総合原価計算表の作成と記帳法を習熟する。</li> <li>・等級別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と等級別総合原価計算のしくみを理解し、等級別総合原価計算表の作成を習熟する。</li> <li>・組別総合原価計算が用いられる製造業の特徴と組別総合原価計算のしくみを理解し、組別総合原価計算表の作成を習熟する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解する。</li> </ul>	課題考査	課題考査	課題  小テスト

2 学 期	10	<p>第10章 工程別総合原価計算</p> <p>第11章 総合原価計算における減損・仕損じなどの処理</p> <p>第12章 製品の完成と販売</p> <p>第13章 決算と本社・工場間の取引</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工程別総合原価計算表の作成を通して、工程別総合原価計算のしくみを理解する。</li> <li>・半製品の意味と半製品がある場合の記帳方法について理解する。</li> <li>・減損の意味と、それが発生した場合の処理方法を理解する。</li> <li>・副産物・作業くず・仕損品の意味と、それぞれが発生した場合の記帳方法について理解する。</li> <li>・製品の完成と販売に伴う手続きと記帳方法を理解する。</li> <li>・販売費及び一般管理費の記帳方法を理解する。</li> <li>・月次決算の意味と年次決算との関連について理解する。</li> <li>・財務諸表の特色を理解させ、製造原価報告書の作成を習熟する。</li> <li>・工場会計の独立と、その記帳方法について理解する。</li> </ul>			小テスト 小テスト 小テスト 小テスト
	11	<p>第14章 標準原価計算（その1）</p> <p>第15章 標準原価計算（その2）</p> <p>第16章 直接原価計算（その1）</p> <p>期末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準原価計算が原価管理に役立つ理由を知る。</li> <li>・標準原価計算の意義と特色、全体的な流れを理解する。</li> <li>・完成品と仕掛品の標準原価による計算方法を理解する。</li> <li>・原価差異の計算とその分析方法を理解する。</li> <li>・標準原価計算の記帳方法を理解する。</li> <li>・標準原価計算による損益計算書の作成方法を理解する。</li> <li>・直接原価計算が利益計画に適している理由を知る。</li> <li>・直接原価計算表の意義と特色を理解する。</li> <li>・直接原価計算による損益計算書の組み立て方を理解する。</li> </ul>	定期考査	定期考査	小テスト 小テスト 小テスト 問題集
	12	<p>第17章 直接原価計算（その2）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解する。</li> <li>・高低点法を用いた原価予測の方法を理解する。</li> </ul>			小テスト
3 学 期	1	<p>第17章 直接原価計算（その2）</p> <p>総合演習 学年末考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CVP分析や損益分岐図表により、売上高・原価・利益の関係を理解する。</li> <li>・高低点法を用いた原価予測の方法を理解する。</li> <li>・全商簿記実務検定試験1級原価計算の理解を深める</li> </ul>	定期考査	定期考査	小テスト 問題集

担当者からのメッセージ（学習方法など）

問題集等を利用して学習を進めていきます。授業の内容の復習を時間が終わるごとにする習慣を身に付けていって下さい。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	選択 管理会計	開発	利用	I類	II類	III類
		-	-	-	3	-
学習の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経営管理に有用な会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を養う。					
使用教材	教科書：管理会計Ⅱ（TAC出版） 副教材：全商管理会計検定試験論点別ニューステップアップ模擬+過去問題集（TAC出版）					
評価	評価法	定期考査・小テスト・問題集で評価します。				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	管理会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	会計情報を活用した経営管理の方法の妥当性と課題を見出し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	適切な経営管理を行う力の向上を目指して自ら学び、経営管理に有用な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	第1章管理会計の目的	財務会計と管理会計の違いや、管理会計の目的と重要性について学習する。			小テスト
		第2章 管理会計と原価計算	経営者や工場長など各部門の責任者にむけて、企業経営に有用な情報の作成とその作成に大きな役割を果たす原価計算について学習する。			小テスト
		第3章管理会計に有用な原価情報	管理会計に役立つ原価情報の分類について学習する。			小テスト
		第4章原価予測の方法	原価予測に有用な原価の分解方法について学習する。			小テスト
		第5章CVP分析と感度分析	売上高や販売量の変化が利益にどのような影響を与えるか理解し、利益管理の方法を理解する。			小テスト
		第6章利益の最大化	利益を最大化する製品の販売量の組み合わせの決定方法について学習する。			小テスト
	5	中間考査		定期考査	定期考査	問題集
	5	第7章標準原価計算	仕損や減損が発生する場合の目標原価の設定方法と、目標原価と実際原価の差異分析について学習する。			小テスト
	6	第8章直接標準原価計算	原価管理と利益管理の両方に役立つ情報を入手する方法としての標準原価計算を学習する。			小テスト
		第9章企業予算の編成	利益計画にもとづいた予算編成方法について学習する。			小テスト
	期末考査		定期考査	定期考査	問題集	
7	第10章予算統制	予算と実績の分析方法とともに分析結果を各部門の業績評価に役立てる方法を学習する。			小テスト	

2 学 期	9	第11章経営意思決定の概要	経営意思決定の種類とプロセス及び意思決定に必要な情報と判断基準となる数値の計算方法を学習する。			小テスト
		第12章業務的意思決定	限られた企業の経営資源を最大限有効活用して、利益を最大化するための判断方法を学習する。			小テスト
	10	第13章構造的意決定	長期的な視点に立って行われ、企業の業務構造自体に変革をもたらす構造的意決定について具体的な場面における計算方法を学習する。			小テスト
		第14章企業の組織構造	職能別組織と事業部制組織について、それぞれの特徴とその責任範囲について学習する。			小テスト
	11	第15章業績測定の方法	各部門や管理者ごとの業績測定の具体的な方法について学習する。			小テスト
		第16章目標原価計算	新製品の設計段階における企業の目標利益の確保と顧客ニーズに合致した販売価格の設定に向けた目標原価の計算方法について学習する。			小テスト
		第17章活動基準原価計算	製造間接費をより正確に配賦する方法である活動基準原価計算の方法について学習する。			小テスト
		期末考査		定期考査	定期考査	問題集
	12	第18章品質原価計算	製品の品質を維持しつつ原価を節約する方法としての品質原価計算について学習する。			小テスト
3 学 期	1	構造的意決定の発展学習	第13章において学習した構造的意決定について具体的な場面における計算方法をより条件を複雑化した内容で学習し、応用力を身につける。 より発展した内容（経済的発注量の計算）について学習する。			小テスト
		学年末考査		定期考査	定期考査	問題プリント

担当者からのメッセージ（学習方法など）

2年生で学習した原価計算より深化させた内容になります。原価計算の内容をしっかりと復習をして、この授業に臨んでください。授業は、問題集等を使って学習をしていきますが、難易度の高い内容なので、必ず自宅での復習をするようにして下さい。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	ソフトウェア活用	開発	利用	I類	II類	III類
		4	-	-	-	-
学習の目標	(1)企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。					
使用教材	教科書：ソフトウェア活用（東京法令出版）					
評価	評価法	定期考査、実習テスト、実習課題、作品提出、振り返りシート				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	ソフトウェアの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見しようとしている。また、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ソフトウェアに関する技術などによってこれらの課題を解決するための最適な解を導き出し、よりよく解決しようとしている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と積極的に関わりながら、企業活動におけるソフトウェアの活用に責任をもって取り組む態度を身に付けている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1 学期	4	序章「企業活動におけるソフトウェア活用」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス活動において、情報の収集・整理や管理に利用されているデータベースの概要や重要性について学習する。</li> <li>・データベースのデータを守るためのしくみについて学習する。</li> </ul>	中間考査	中間考査	
		第2章 データベースソフトウェアの活用 第1節「データベースの重要性」				
	第2節「リレーショナルデータベースの概要と設計」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースソフトウェアの操作方法を学習する。また、学習内容を活用して報告書を作成する。</li> </ul>	定期考査	定期考査		
	第3節「データベースの作成と操作」					<ul style="list-style-type: none"> <li>・一連の処理をマクロ機能によって自動化する方法と、メニューを作成する方法について学習する。</li> </ul>
中間考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座管理システムに必要な報告書の作成方法（レポート機能）を学習する。</li> <li>・成績管理システムに必要な集計（グループ集計・クロス集計）の操作方法を学習する。</li> </ul>	期末考査	期末考査	実習課題		
6					実習課題1 講座管理システムの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・削除クエリの操作方法について学習する。</li> </ul>
7	実習課題2 成績管理システムの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・削除クエリの操作方法について学習する。</li> </ul>	期末考査	期末考査	実習課題	
7	実習課題3 予約管理システムの作成					

2 学 期	8	第3章 情報システムの開発 第2節「データベースソフトウェアによる情報システムの開発」	・手続きの自動化とユーザーフォームを活用した情報システムの開発を、データベースソフトウェアの実習を通して学習する。	実習テスト	実習テスト
	9	実習課題4 宿泊管理システムの作成 実習課題5 売上管理システムの作成	・宿泊管理システムに必要なフォームの作成方法を学習する。 ・売上管理システムに必要なマクロの作成方法などを学習する。		
	10	オリジナルシステムとシステム設計書の作成	・実習課題1～5で学習した手法を使ってオリジナルでシステムを考え、作品を作る。	定期考査	定期考査
11		・オリジナルシステムの設計書（完成図書）を作る。 ・完成した作品を発表し、相互評価する。	作品提出		
	12	期末考査 オリジナルシステムの改善案作成とシステムの修正・設計書の見直し	・相互評価を受けて、システムの改良、修正を行うための改善案を作成し、システムの修正を行う。 ・システムの修正に合わせて、設計書の修正を行う。		
3 学 期	1	オリジナルシステムの修正 学年末考査	・完成した作品を相互評価する。		作品提出 定期考査

担当者からのメッセージ（学習方法など）

1年次で学習した「表計算」や2年次で学習した「VBA」の知識を生かして、ACCESSによるシステム開発を行います。実習が中心の積み上げ学習ですので、毎回取り上げる実習課題の内容を理解し、復習をしっかりとるようにしましょう。オリジナルのシステム開発では、柔軟な発想と3年間学習した知識や技術を使って作品を完成してください。

令和7年度

学年	3年生	単位数				
		情報システム科		総合ビジネス科		
科目名	プログラミング	開発	利用	I類	II類	III類
		-	4	-	-	-
学習の目標	(1)プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 (2)企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 (3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。					
使用教材	教科書：プログラミング（東京法令出版） 副教材：全商情報処理検定 模擬問題集 2級[プログラミング部門]（実教出版） 1級[プログラミング部門]（実教出版）					
評価	評価法	定期考査、課題考査、小テスト、問題集、振り返りシート等				
	評価観点の趣旨	①	知識・技術	実務と関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つプログラムと情報システムの開発に関する知識と技術を身に付けている。		
		②	思考・判断・表現	プログラミングをはじめとしたさまざまな知識、技術を活用して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見しようとしている。また、プログラムと情報システムの開発が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、課題に対して最適な解を導き出し、よりよく解決するための力を身に付けている。		
		③	主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自らプログラムと情報システムの開発について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に責任をもって取り組む態度を身に付けている。		
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評点（1～5の5段階）にまとめます。学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

期	月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
				①	②	③
1	4	第1章 「情報システムの重要性」  第2章 「ハードウェアとソフトウェア」  第3章 「アルゴリズムの表現技法とデータ構造」 第1節 「アルゴリズムの表現技法」 ①アルゴリズムの表現技法	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報システムの概要や、プログラムの役割、プログラミングを学ぶ意義について学習する。</li> <li>情報システムの有用性と課題について学習する。</li> <li>1年次「情報処理」での学習を踏襲する。</li> <li>2年次「ネットワーク活用」での学習を踏襲する。</li> <li>アルゴリズムとは何か、学習する。</li> <li>処理手順を表現するための技法について学習する。</li> <li>流れ図の基礎 集計、件数、最大値、最小値、多分岐、の各処理のアルゴリズムを学習する。</li> </ul>	小テスト	小テスト	振り返りシート

1 学期	5	<p>第4章 「手続き型言語のプログラミング」 第1節 「プログラミングの手順」</p> <p>第2節 「データの入出力と演算」</p> <p>第3節 「条件判定と繰り返し処理」 ①条件判定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表計算ソフトウェアのプログラミング機能について学習するための前段階として、開発画面を概観する。</li> <li>実際にプログラムを作成して実行するまでの一連の手順を確認する。</li> <li>変数と定数及びデータ型について学習する。</li> <li>プログラムへのデータの入力や、プログラムによるデータの出力について学習する。</li> <li>プログラムで四則演算を行う方法について学習する。</li> <li>条件によってプログラムの流れを分岐される方法について、Ifステートメントなどと関連付けて学習する。</li> </ul>			
		中間考査		定期考査	定期考査	
	6	<p>②一定回数の繰り返し</p> <p>③条件による繰り返し</p> <p>第4節 「配列の利用」 ①配列とは ②配列を利用した集計 ③線形探索</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ処理を繰り返すときに使うFor ~ Nextステートメントについて学習する。</li> <li>ある条件を満たしている間だけ処理を繰り返すDo ~ Loopステートメントについて学習する。</li> <li>配列とは何か、学習する。</li> <li>配列を利用した集計方法について学習する。</li> <li>線形探索のアルゴリズム及び線形探索をプログラムで実現する方法について学習する。</li> </ul>			
		期末考査		定期考査	定期考査	
	7	<p>第5章 「プログラミングと情報システムの開発」 第1節 第2節 第3節 「情報システムの評価と改善」 第4節</p> <p>総合問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 2年次の「ネットワーク活用」にて学習</li> <li>* 2年次の「ネットワーク活用」にて学習</li> <li>情報システムを正しく評価するための手法について学習する。</li> <li>* 2年次の「ネットワーク活用」にて学習</li> <li>全商情報処理検定2級プログラミング部門の学習</li> </ul>			振返シート
2 学期	9	<p>課題考査</p> <p>総合演習問題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全商情報処理検定2級レベルの試験</li> <li>全商情報処理検定2級プログラミング部門の学習</li> </ul>	課題考査	課題考査	振返シート
	10	<p>第4節 「配列の利用」 ⑦多次元配列</p> <p>第4節 「配列の利用」 ④二分探索</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二次元配列を利用した集計方法について学習する。</li> <li>二分探索のアルゴリズム及び二分探索をプログラムで実現する方法について学習する。</li> </ul>	小テスト	小テスト	振返シート
	11	<p>⑤順位付け</p> <p>⑥並べ替え</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>順位付けのアルゴリズム及び順位付けをプログラムで実現する方法について学習する。</li> <li>並べ替えのアルゴリズム（交換法・選択法・挿入法）及び並べ替えをプログラムで実現する方法について学習する。</li> </ul>	小テスト	小テスト	振返シート
		期末考査		定期考査	定期考査	
	12	総合問題演習	全商情報処理検定1級プログラミング部門の学習			

3 学 期	1	総合問題演習	全商情報処理検定1級プログラミング部門の学習	小テスト	小テスト	振返 シート
		学年末考査		定期考査	定期考査	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

プログラミングは、楽しいものです。ちょっとしたパズルを解くような面白さがあります。エラーが出て思ったとおりに動かないこともありますが、それを一つひとつ解決していくことそのものに楽しさと面白さがつまっています。プログラミングをとおしてより豊かな思考力を身につけていきましょう。